

# みのほな

千葉大学医学部同窓会報 第173号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みのほな同窓会長)

編集発行者  
千葉大学医学部  
みのほな同窓会報編集部  
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学医学部内  
みのほな同窓会  
電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail : info@inohana.jp  
HP : http://www.inohana.jp/



## 平成28年度 みのほな同窓会総会開催

平成28年度みのほな同窓会総会が、平成28年6月11日(土)午後3時20分より、千葉大学医学部附属病院ガーネットホール(外来診療棟3階大講堂)において開催された。

白澤浩理事の司会により、吉川広和副会長が開会の辞——を述べられた。会議に先立



平成28年度 千葉県みのほな会総会  
千葉大学みのほな同窓会 総会

祈り黙祷を捧げた。済陽高穂会長の挨拶に続いて、各議事について吉原俊雄副会長、白澤理事、幡野雅彦理事から説明があり、審議承認された(議事要旨32面に掲載)。

総会に引き続き、平成28年度みのほな同窓会賞伝達式、日本化学療法学会「志賀潔・秦佐八郎記念賞」受賞の報告並びに挨拶、さらに山本修一氏(千葉大学医学部附属病院



### 会長挨拶

みのほな同窓会長 済陽高穂(昭45)

長)、志賀隆氏(東京ベイ・浦安市川医療センター救急部長)、石川広巳氏(日本医師会常任理事)によるシンポジウムが行われた(シン

みなさんこんにちは。昨年から会長を仰せつかりました、昭和45年卒の済陽です。よろしくお願ひします。本年の総会は千葉県支部の担当で、非常に盛り沢山のプログラムが用意されております。

愛の賜物であり、また同窓生の絆の強さを感じられる素晴らしい出来事でした。その後私が会長として、何を為すかということが一つの命題であります。ゆつくりと皆さんとともに新たな方向性を考え、同窓会発展のために努力したいと思います。

ポジウムの内容は2、3面に掲載)。懇親会では平成27年秋および28年春の叙勲者を祝つた。

さて、同窓の先生方は各方面でご活躍されておりますが、今年の同窓会「功労賞」は日本医師会会長を務められました唐澤祥人先生に決まりました。本日唐澤先生は所用で欠席されるので、授賞式に代えて伝達式とさせていただきます。また上原サチ子先生が日本化学療法学会の「志賀潔・秦佐八郎記念賞」を受賞され昨日神戸で授賞式が行われたとのことで、本日この会で皆さん方へのご報告とご挨拶をお願いしてあります。

このところ医道や医師の資質がなおざりにされている印象があり、臨床の現場、殊にがん専門科、外科、麻酔科など診療行為が直ちに患者の生死に直結する診療科では、細心の注意を払って診療にあたっていたいただきたいと思ひます。また医学部教育、臨床研修を含めた医師としての養成、専門医への修行については可能な範囲で厳しい指導を各方面に願ひする次第です。千葉大学医学部が、これまで同様、医療の根幹であ

先生は所用で欠席されるので、授賞式に代えて伝達式とさせていただきます。また上原サチ子先生が日本化学療法学会の「志賀潔・秦佐八郎記念賞」を受賞され昨日神戸で授賞式が行われたとのことで、本日この会で皆さん方へのご報告とご挨拶をお願いしてあります。

総会開催	2
会長挨拶	2
シンポジウム	3
就任挨拶	4
人事異動	10
叙勲感想	11
最終講義	12
BELCA賞受賞	13
各地のみのほな会	14
クラス会	15
研修プログラム	16
研修医だより	17
課外活動団体だより	19
学内情報	20
著書紹介	23
地区のみのほな会報	24
会員から	25
雑文雑談	26
議事要旨	27
オンライン会報	28
編集後記	29

- 祝 叙 勲**
- 平成28年 春の叙勲
- 瑞宝重光章 山浦 晶(昭40)
  - 瑞宝中綬章 野尻 雅美(昭36)
  - 武者 廣隆(昭40)
  - 谷口 克(昭42)
- 瑞宝小綬章
- 真家 雅彦(昭35)
  - 横山 孝一(昭35)
  - 鈴木 伸典(昭36)
  - 鈴木 淳子(昭47)
- 平成28年春の褒章
- 藍綬褒章 道永 麻里(昭56)

### 紙面紹介

唐澤祥人 (唐澤医院、昭43)  
「日本の医療における総合的な改善活動」

### 第21回(2016年度) みのほな同窓会賞 受賞者決定

る医師養成機関としての役割を担っていくには更なる多大な努力が必要であろうと考えております。みのほな同窓会活動を通じて、母校の発展に微力を尽くす覚悟しております。今後ともよろしくお願ひ致します。



### の は な 同 窓 会 総 会

#### シンポジウム

## 押しよせる高齢化、ジェネラリスト活用で突破口を見いだす —新専門医制度も踏まえて—

### 千葉大学病院で総合診療医育成？

千葉大学医学部附属病院長  
**山本修一** (昭58)



千葉大学病院は特定機能病院として、高度急性期医療を担うことが期待されており、各診療科(総合診療科も含めて)は高度に専門分化した診療を行っている。結論を先に言えば、総合診療医を大々的に育成する体制など、大学病院に望むべくもない。

大学病院で相次いだ医療事故を受けて、医療安全やガバナンスに関する締め付けは厳しくなる一方であり、確固とした支援体制のもとでの臨床研究の推進も強く求められている。しかしながら、経営的にはもともと

極めて高コスト体質であり、さらに診療報酬のマイナス改定、消費税の補填不足、公的支援の先細りなど、大学病院は火の車である。在院日数の短縮と入院診療単価の向上は、経営上の緊急の課題であり、診療の効率化の必要性和相まって、医療連携の仕組み作り(特に病病連携)は急ピッチで進められている。しかし大学病院の置かれた厳しい環境や総合診療医育成への期待を考えると、これまでの医療連携という概念を超えた新たなシステムを創造する時期にきているのではないだろうか。



座長 横手幸太郎(千葉大学医学部附属病院副院長)  
中村真人(中村医院院長)  
指定発言 松本晴樹(厚生労働省)

院と経営統合し、規模を拡大する。これにより、医療従事者では一貫した人材教育やキャリアパスの構築が可能となり、人事の一元化による派遣機能の強化と安定した身分の確保が可能になる。また全体を俯瞰する企画部門と事務部門を置くことにより、人材集約によるグループ全体の成長戦略策定が可能となり、業務の統一・集約による効率化が促進される。医療機器の共同利用や戦略的投資、さらには物品の共同購入によるコスト削減も可能となる。資金貸付により設備整備も促進されるだろう。さらには、情報基盤の共通化により、患者情報は一元化され、グループ病院間での入退院や転院の円滑化を図ること

急激に進行する高齢化に対応すべく医療界では対策が求められている。特に大学医学部では、今までに養成されてきた臓器別の専門医(スペシャリスト)に加えて、総合内科専門医、救急科専門医、集中治療専門医など、患者・家族の問題を地域の中で医療資源を活かしてともに解決する専門医(ジェネラリスト)が求められている。

ややもすると、スペシャリストの専門性の意義や、やりがい強調されがちな

院と経営統合し、規模を拡大する。これにより、医療従事者では一貫した人材教育やキャリアパスの構築が可能となり、人事の一元化による派遣機能の強化と安定した身分の確保が可能になる。また全体を俯瞰する企画部門と事務部門を置くことにより、人材集約によるグループ全体の成長戦略策定が可能となり、業務の統一・集約による効率化が促進される。医療機器の共同利用や戦略的投資、さらには物品の共同購入によるコスト削減も可能となる。資金貸付により設備整備も促進されるだろう。さらには、情報基盤の共通化により、患者情報は一元化され、グループ病院間での入退院や転院の円滑化を図ること



東京ベイ・浦安市川医療センター救急部長  
**志賀 隆** (平13)

風潮がみられるが、キャリアの選択においてどちらが正しいわけでも、上下があるわけでもない。スペシャリストは取り組む分野を限定して日々自身の専門性を高める、という性格の医師に向いていると考えられる。

一方、ジェネラリストは臓器別の専門性を高めるよりも様々な臨床上・社会上の問題解決をしていくことにやりがいを感じる医師に向いていると考えられる。

そのため、スペシャリストとジェネラリストはそれぞれの得意分野や、やりがい異なるだけであって、上下があるわけでもない。対立があるわけでもない。米国の大規模なアカデミックメディカルセンターでは、スペシャリストとジェネラ

ができる。

このように、ヒト・モノ・カネ・情報を有効活用することにより、グループ病院が共に成長するシステム構築を真剣に考える時期に来ているように思われる。もちろん、このようなシステムであれば総合診療医の育成に大学病院が深くかわかることもできるだろう。

「Chiba University Health Care System」また法螺話のネタが増えた。

ER型救急という挑戦  
医師不足対策の切り札になるか

当然議は、千葉県研修協力関連病院連絡会議を発展的に改組したもので、県内外の関連病院の結びつきを強化し、相互の医療レベルを向上させ、学生臨床実習の充実並びに初期臨床研修・専門医研修の充実を図ることを主目的としている。

総会では小林欣夫副院長の進行により、山本修一病院長から、来年4月に始まる専門医制度については、関連病院間で忌憚のない意見を交えながら議論を重ね、地域に根付く優秀なドクターを育てていきたい旨挨拶があった。

続けて、各議事については司会より説明があり、審議院議員(元厚生労働副大臣)から、アジアにおける健康構想「活力ある健康長寿社会の実現に向けて」と題して、熱心にご講演いただいた。



山本修一病院長の挨拶  
武見敬三参議院議員による講演会

### 千葉大学関連病院会議 第二回総会を開催

平成28年5月28日(土)  
於 京成ホテルミラマール

当会議は、千葉県研修協力関連病院連絡会議を発展的に改組したもので、県内外の関連病院の結びつきを強化し、相互の医療レベルを向上させ、学生臨床実習の充実並びに初期臨床研修・専門医研修の充実を図ることを主目的としている。

総会では小林欣夫副院長の進行により、山本修一病院長から、来年4月に始まる専門医制度については、関連病院間で忌憚のない意見を交えながら議論を重ね、地域に根付く優秀なドクターを育てていきたい旨挨拶があった。

続けて、各議事については司会より説明があり、審議院議員(元厚生労働副大臣)から、アジアにおける健康構想「活力ある健康長寿社会の実現に向けて」と題して、熱心にご講演いただいた。

その後、専門研修プログラムの進捗状況について、生坂政臣副院長より報告があった。また、経営力向上の取組みとして病院長企画室井上病院長補佐から、最近の医療行政の動向として、千葉県医療整備課の高岡課長よりご説明をいただき、活発な意見交換が行われた。

議承認された。



リストは対立するのではなく、コロナボレーションをすることでお互いの可能性を高め、幸せに共存している。千葉においてもスペシャリストとジェネラリストが共存し互いに高めあえる環境が望ましい。

スペシャリストとジェネラリストに似た関係が臨床研究と基礎研究である。千葉大学には公衆衛生大学院 (School of Public Health) がまだないが、政令指定都市に所在し、全国で認められた医学部のある千葉大学において臨床研究をすすめるためには公衆衛生大学院設置が是非望まれる。臨床研究の推進は、基礎研究の推進において対立を産むのではなくコロナボレーションの可能性を広げると考えられる。

21世紀に千葉大学が輝くためのキーワードは「対立からコロナボレーションへ」と考える。是非、千葉大病院ならびに千葉大病院関連施設のスペシャリストとジェネラリスト養成における活発なコロナボレーションが望まれる。また同様に公衆衛生大学院を設置し臨床研究と基礎研究のコロナボレーションから世界へのエビデンスの発信も卒業生としては期待したい。

## 日本医師会におけるかかりつけ医推進の取り組み

日本医師会常任理事

石川 広 己 (昭55)



平成28年5月22日(日)の午前から夕方にかけて東京駒込にある日本医師会館は全国からの受講者で賑わっていた。その日は「かかりつけ医中央研修」の第一回目の講習が行われた。日本医師会では本年4月より、日本医師会としてかかりつけ医が中心となって地域医療を担う仕組みを目指し、地域住民から信頼される「かかりつけ医」のあるべき姿を提示し、実際に、その能力を維持・向上するための研修を実施した。この講習会は、高齢者の医療・介護や終末期医療等の倫理的な問題、在宅医療の実際やチーム医療での取り組みなど、日本医師会の生涯教育に位置づけられた内容である。その日、駒込の日医大講堂で受講したのは各地から3

00名弱であったが、全国の都道府県医師会にテレビ会議のネットワークで配信され、6400名の会員が受講した。日曜の朝から夕にかけてスクリーンの前で受講したのである。特にかかりつけ医になると診療報酬でメリットがある等と言うことはない。また、既存の学会の参加ポイントにもならない。日本医師会が提唱した「かかりつけ医」推進運動にこれほど熱心な参加が得られたと言うことはプロフェッショナルオートのノミの発揮として、実に驚くべきことである。

今、日本は激しい勢いで少子高齢化が進んでいる。いわゆる2025年問題と銘打ち、全国各地で医療・介護システムの整備が取り上げられている。国の方針として地域医療計画と地域包括ケアシステム作りが各地で進んでいる。日本医師会ではこの地域包括ケアシステム作りを「かかりつけ医」を中心にして、「まち作り」運動として位置付けている。地域の医療・介護だけでなく疾病予防や様々な公衆衛生的な活動の中心にかかりつけ医を置いて、活躍してもらいたいとの願いである。かかりつけ医には様々な科を越えた相談や課題が持ちかけられるであろう。それには、患者、地域の住民が持ち込む健康上の問題など、様々な課題を交通整理する力、問題解決能力が問われている。これこそ、医療におけるプライマリケアの実践や、総合的な診療能力の発揮であり、社会のインテリゲンチアとして学んできたことの実践であると思う。そのような「かかりつけ医」の発想で日本医師会は専門医制度の議論とは全く異なる次元でこの「かかりつけ医」の普及を作り上げようとしている。その点では私個人もプライマリケア医を目指して進んできたものとして極めて合致している。

今、専門医制度変更の議論そのものが延期となり、若い医師は大変迷われているかも知れないが、最初から最後まで専門医というのではなく、きちんとジェネラリティーを構築した上でその上にサブスペシャルの構築、また、そのさらにさらに目指したい方がい

ばその上の極めのスペシャリティーを目指すのはどうか。その仕組みを用意するのが専門医制度であると思う。医師でバリバリ働ける

のはせいぜい40年から50年程度であるが、その間にいかに地域医療や世の中に貢献できるかが問題である。若い先生方や医学生は、そこで活躍できる医師を目指し自らのキャリアアップを考えてもらいたい。

## 志賀潔・秦佐八郎記念賞を受賞して

千葉大学名誉教授 埼玉医科大学小児科 上原 すゞ子 (昭31)

本年6月10日、神戸国際会議場において日本化学療法学会「志賀潔・秦佐八郎記念賞」を賜り光栄に存じます。この賞は本誌前号紹介の様に、この度の主題は私の生涯にわたる「小児細菌感染症の病原診断と抗菌薬治療予防に関する研究」です。その内容は日本化学療法学会雑誌2017年1月号に掲載予定ですし、ある部分は2008年本会功労賞受賞時に「小児呼吸器感染症診療ガイドラインの作成とインフルエンザ菌b型(Hib)ワクチン導入」として大要を記載させて頂きました。

小学校入学前年疫病(劇症赤痢)に罹り奇跡的に救命された私は、医学部3年時から駒込病院伝染病科小張一峰先生(昭15卒。後にWHO、琉球大学)の下で細菌診断を学びました。千葉大学小児科志望でしたが「小児科に女医はいない。臨床と研究に厳しく到底無理」と言われて止む無く大学院に挑みました。当時小児科のメインテーマに疫病があり、佐々木哲丸教授と土屋與之講師のもと、疫病発症病因の研究指導を頂きました。久保政次教授に代って「呼吸器の細菌学」を示唆されて、私は1964年8月順天堂大学小酒井望教授から臨床細菌学を学びました。呼吸器(下気道)感染症の原因菌判定には苦心し、下気道由来を確認した洗浄喀痰培養から原因菌判定基準を考案し半世紀以上継承されています。「小児呼吸器感染症診療ガイドライン」もこれを基準に作成しました。

1968年来欧米のHib研究第一人者Dr. Selig Dr. Robbinsらのもとで研修を重ね、Hib全身感染症の研究、国際会議報告、わが国、千葉県の疫学的調査を続け、現在まで継承されてきました。Hibワクチンの導入を提唱し続けて20年余、Hib全身感染症全例報告、血清型確認の啓発、ワクチン発案者Dr. Robbins招聘などに務め、2007年漸く導入が承認されました。定期接種化後Hib髄膜炎は千葉県はじめ皆無になりました。千葉大学小児科、感染症関係の方々、同窓の皆様のご尽力の賜です。石和田稔彦先生のご支援に感謝しております。



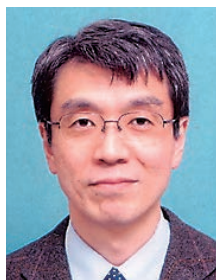


# 教授就任挨拶

## 千葉大学大学院薬学研究院

### 寄附講座医薬品情報学 特任教授

神崎 哲人 (昭55)



平成28年4月1日付けで千葉大学大学院薬学研究院寄附講座医薬品情報学の特任教授を拜命致しました。ろのはな同窓会の諸先生、千葉大学の先生方をはじめ、多くの先生方にお世話になつておりますことを、この場をお借りして御礼申し上げます。本講座は、国立大学法人千葉大学と株式会社マツモトキヨシホールディングスが高齢化社会の急速な進展や医薬分業の推進により、多様化する保険薬局業務に対して各種対応が重要であるとの共通認識から、医薬品適正使用の普及、地域医療への貢献、医療関連サービスの充実を目的に平成25年に設置されたものです。

私は昭和55年に千葉大学医学部を卒業後、内科学第

平成19年4月からは千葉薬学大学院薬学部臨床医学研究室の教授として、主に薬学部学生・大学院生の教育と動脈硬化性疾患の臨床研究に取り組んでまいりました。

二講座（現在の細胞治療内科学）に入局いたしました。当時の熊谷朗教授、吉田尚教授、齋藤康教授など多くの先生方から動脈硬化化学の基礎・臨床のみならず、科学のあり方、その精神についてご指導を賜りました。さらに、スウェーデン国ウプサラ市ルードウツク癌研究所のヘルディン教授のもとで増殖因子のひとつであるEGF $\alpha$ 及びその結合蛋白の研究に従事させていただきました。スウェーデン留学では、新たな研究方法について学ぶとともに欧州における科学の伝統の厚みについても考えさせられました。その後、国保国吉病院（現在のいすみ医療センター）内科、成田空港検疫所の医療職、国立精神・神経センター国府台病院内科で臨床経験を積みながら、当時の千葉大学医学部内科学第二講座や千葉大学薬学部医薬品情報学の上田教授のもとで動脈硬化症の研究を続けさせていただきました。

研究テーマは、TCF $\beta$ と動脈硬化症の血管壁細胞の性質変化、精神疾患患者における動脈硬化性疾患の実態の解明、高齢者のポリファーマシー（多剤処方）例の実態の調査・研究など、いずれも動脈硬化症の基礎・臨床や地域医療・医薬品適正使用への貢献に関係しています。動脈硬化症は多くの危険因子（外因）を取り除いても、その発症・進展をゼロにすることはできません。個々の血管壁細胞の性質（内因）を解明することにより、動脈硬化症をさらに深く理解し、その対策を立てられるものと考え、基礎研究・臨床研究を進めています。

現在、急速な高齢化社会の到来とともに、求められる医療・医療人は急激に変化しつつあります。将来のどのような変化にも対応できる医療人を育成することは、私たちの非常に重要な任務です。さらに、本講座の特徴である企業との共同研究を進展させ産学連携を着実に進めていく所存です。

## 三重大学医学系研究科

### 遺伝子・免疫細胞治療学 教授

渡辺 隆 (昭61)



三重大学遺伝子・免疫細胞治療学は、名古屋大学血液内科出身で三重大学学長・血液内科教授を歴任された珠玖洋教授の新規治療薬開発研究を、タカラバイオ社が支援する寄附講座で実施する。First-in-Man studyを目指す治療開発は他のアカデミアや企業との共同研究が不可欠なことから、産学官連携講座に属します。2016年4月より、珠玖先生の下で働く二人の教授のうち、一人の後任となりました。

私は名古屋第二赤十字病院で初期研修を終え、国内第一例の骨髄移植を手掛けたられた平林憲行先生に出会い、血液内科を専攻しました。その後、都立駒込病院化学療法科に異動、在京中に当時の国立小児病院ウイ

ので、皆様方からのご支援、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

三重大学遺伝子・免疫細胞治療学は、名古屋大学血液内科出身で三重大学学長・血液内科教授を歴任された珠玖洋教授の新規治療薬開発研究を、タカラバイオ社が支援する寄附講座で実施する。First-in-Man studyを目指す治療開発は他のアカデミアや企業との共同研究が不可欠なことから、産学官連携講座に属します。2016年4月より、珠玖先生の下で働く二人の教授のうち、一人の後任となりました。

私は名古屋第二赤十字病院で初期研修を終え、国内第一例の骨髄移植を手掛けたられた平林憲行先生に出会い、血液内科を専攻しました。その後、都立駒込病院化学療法科に異動、在京中に当時の国立小児病院ウイ

ニング半ばにUCSD(カリフォルニア大学サンディエゴ校)に留学することとなりました。そこではHIVに対するribozyme (RNA enzyme)の臨床遺伝子導入試験が行われていました。さらにDise大で変異P53をRNAレベルで修復すべく核酸医薬の研究に従事しました。

4年半の留学生活後、2000年4月に帰国、国立がんセンター中央病院血液内科に赴任。着任間もなくから10年越しでランダム化比較試験 (JCOG903) の事務局を務め、その結果を2010年に報告しました。これは、抗CD20キメラ型モノクローナル抗体併用化学療法による、わが国初の濾胞性リンパ腫をはじめとする進行期低悪性度リンパ腫300例を対象とした、大規模多施設共同試験でした。その後、厚生労働省科学研究所の班員に指名されたのを契機に、研究志向が多発性骨髄腫のほうへ向きました。後に骨髄腫患者の生存を飛躍的に延ばすことになった初のプロテアソーム阻害剤 (PI) ボルテゾミブの、末梢神経障害 (PN) に早くから着目し、研究を始めました。また、治療前全血中のmiRNAからP

Nと効果を予測するバイオマーカー研究 (国内で初めての骨髄腫に関する多施設前向き試験) を研究代表者として担い、それぞれ結果を報告しました。更に最近では、国内第I・II相試験で、第二世代PIカルフィゾミブが高血圧 (自立神経障害の一つと考えられる) を惹起することを昨年報告しました。今回の珠玖教授からのご提案は、昨年6月骨髄腫の国際学会に参加し、今後の骨髄腫治療は免疫学の知識なくしては不可能であることを痛感し、是非とも勉強をしたいと思つていた矢先の、思つてもみない出来事でした。

「がん免疫療法」は、これまで有用な治療とはされていませんでした。しかし、ここ数年、免疫チェックポイント (T細胞活性を負に制御している分子) 阻害薬が脚光を浴びています。悪性黒色腫のみならず、今や非小細胞肺・腎・膀胱がんでも臨床効果が確認されました。また、急性リンパ性白血病では、細胞表面抗原CD19を標的とした抗体部分を用いたウイルス・ベクターでT細胞内から発現させ、さらにT細胞シグナルを強力に発現させた、キメラ抗原受容体T細胞療法 (CAR-T)



が、移植後の再発例や治療抵抗例の救済療法として、確立した治療法になつてきています。

珠玖教授は、2015年「複合的がん免疫療法研究センター」を三重大学内に設立され、長年取組まれてきたワクチン以外に、新しいがん特異的抗体、エクソソーム(細胞が放出する細胞外小胞体)のがん治療への

### 獨協医科大学病院

排泄機能センター 教授

山西 友典 (昭57)



平成28年4月1日付で排泄機能センター主任教授を拝命いたしました。の

はな同窓会会員の皆様にご支援を賜りましたことを心より感謝いたします。

排泄機能センターは、排泄障害を中心として、種々の診療科の医師、コメディカルスタッフ(看護師、排尿機能検査技師など)が一

応用などの開発も進められています。異なったアプローチを適切に組合せ、より有効で安全な治療法の開発を目指しています。基礎・臨床を問わず幅広い分野から、千葉大医学部卒の諸先生方のご助言を頂きながら、免疫治療開発に邁進したい所存でありますので、宜しくお願い申し上げます。

成23年7月に開設いたしました。これまでは、中央部門として運営しておりましたが、この度排泄機能という分野の重要性、将来性が認められ、公募による主任教授選が行われたうえで、正式に診療科となりました。

センターが診療科部門というのには奇異に思われるかもしれませんが、種々の診療科が共同で運営する必要性から、排泄機能センターという名称のまま運営することになりました。

私は昭和57年に千葉大医学部を卒業後、千葉大医学部泌尿器科学教室に入局いたしました。その後、昭和58年より厚生中央病院、

旭中央病院などを勤務し、東京都老人総合研究所基礎第二生理(現在の東京長寿医療センター)で排尿生理の研究も行って参りました。昭和63年に千葉大に戻り、以後助手、講師を経て、平成10年から13年まで英国シエールド大学に客員講師として留学いたしました。留学先のUddale教授は欧州泌尿器科学会のSecretary Generalであり、欧米ではいかに排尿機能が重要な位置を占めているかがお分かり頂けるかと存じます。平成13年に獨協医科大学泌尿器科に助教として勤務し、平成21年には学内教授を拝命いたしました。

平成23年より排泄機能センター長を兼任いたしました。これまでは泌尿器科医2名、神経内科医1名、皮膚・排泄ケア認定看護師2名、臨床検査技師1名により排泄機能障害を中心に診療してまいりましたが、秋より外科医を迎え排泄機能障害の診療も行い、また婦人科、小児科との共同診療も計画しております。

私の専門とする疾患は、過活動膀胱、尿失禁、前立腺肥大症、間質性膀胱炎、神経因性膀胱、夜尿症、膀胱尿管逆流、骨盤臓器脱、膀胱腫瘍などです。センタ

ーにおける最新の診療として、難治性過活動膀胱に対する磁気刺激療法、仙髄神経電気埋め込み療法、ボツリヌス毒素膀胱壁内注入術、前立腺術後尿失禁に対する自家脂肪幹細胞尿道注入療法などの開発を行っており

### 獨協医科大学

リウマチ・膠原病内科 教授

倉沢 和宏 (昭58)



平成28年4月1日付で、新たに獨協医科大学に開設された内科学教室、リウマチ・膠原病内科の教授を拝命いたしました倉沢和宏です。

私は1983年(昭和58年)に千葉大学を卒業後、同第二内科(吉田尚教授)に入局し、大病院と鹿島

労災病院での内科全般の研究の後、87年より同科の富岡玖夫先生(東邦大佐倉病院元内科学教授)が主宰される免疫・アレルギー研究室に入り、研究は小池隆夫先生(北大名誉教授)のもと自己免疫疾患の発症

ます。当センターでは、縦割りの各診療科体制を、排泄に關しての横割り体制につなげたく、努力してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

機序の研究をおこなうと同時に、末石眞先生(下志津病院前院長)、高林克己先生(千葉大医療情報学前教授)などに膠原病の臨床を学びました。大変活気のある研究室で臨床・研究の楽しさを学びました。91、94年にかけて、米国NIH(Experimental Immunology Branch, Dr. Gress)に留学し免疫学と「日本と違う世界がある」ことを学びました。帰国後は同研究室にもど

り、岩本逸夫先生(旭中央病院アレルギーセンター)の下で、膠原病の臨床・研究をおこないました。特に膠原病に合併する間質性肺炎に興味を持ち、皮膚筋炎のシクロスポリンが有用であることを同僚とともに見出し、この研究が契機となり、千葉大出身の

獨協医科大学呼吸器・アレルギー内科の福田健教授(現同大副学長)と知遇を得ました。

2004年に福田教授に誘われ、獨協医大に膠原病診療グループを確立するために同呼吸器・アレルギー内科に赴任いたしました。幸い他科の協力も得られ、福田教授、稲葉憲之教授(現同大学長)など多くの千葉大関係者などの支援もあり、膠原病グループは発展することができました。2011年にリウマチセンターができ、今回新たな内科学講座としてのリウマチ・膠原病内科が開設されました。赴任当時は私を含め2人でスタートしたものがス

タッフ8人、後期研修医1名まで発展し非常にうれしく思います。また同時にこの裏には千葉大のネットワークを含む多くの人のご支援があつたことを強く思い、今後は私も若い人の発展に尽くさなければと感じるし

私たちの教室は生まれたての雛の状態にあります。今後、大空を駆け巡るようになるリウマチ・膠原病の診療の拠点として機能するのみならず、私たちの知見を世界に発信し、医学の進歩に貢献できるようにしたいと考えています。今後とも皆様のご支援、ご鞭撻よろしく願います。

平成28年4月1日付で、獨協医科大学病理学教授を拝命いたしました。平成26年4月より2年間、診断病理学講座中谷行雄教授には

### 獨協医科大学

病理学 教授

矢澤 卓也 (筑波大・昭63)



親身にご指導いただき、またのりな同窓会会員の皆さまをはじめ多くの方々にご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。このたび赴任いたしました獨協医科大学におきましても学長の稲葉憲之先生、副学長の福田健先生が千葉大出身者であられ、あらためてのりな同窓会の偉大さ



に感銘を受けた次第であり  
ます。

私は昭和63年に筑波大学  
医学専門学群を卒業後、あ  
のはな同窓会の先輩であり、  
病理学講座を主宰されてお  
られました小形岳三郎筑波  
大学名誉教授のもとで、病  
理学、特に肺腫瘍病理学を  
学び、その後も一貫して肺  
病理学研究を推進してまい  
りました。筑波大から横浜  
市大への異動に際しても、  
やはりあのはな同窓会の先  
輩である故蟹澤成好横浜市  
大名誉教授に大変お世話に  
なり、また私の叔父であり  
肺研病理教授であった故林  
豊先生もあのはな同窓会の  
先輩、といういきさつもあり、  
誠に勝手ながら、私は  
これまで千葉大学を自分の  
母校のようにお慕い申し上げ  
てまいりました。そして  
今回このような形で就任挨拶  
をさせていただくことに、  
深く感謝いたしております。

私は、若い時代に研鑽した  
病理診断学・人体病理形  
態学をベースに研究モチー  
フを想起し、積極的に分子  
生物学的手法を取り入れな  
がら、病理形態の裏に潜む  
疾患の本態を解明していく、  
という病理学研究スタンス  
をとって研究を推進し、こ  
れまで、「癌細胞の腫瘍免疫  
逃避機構の解析」、「癌の悪

性化に伴う増殖フィードバ  
ック機構の破綻についての  
解析」、「癌における血管新  
生機構の解析」、「神経内分  
泌悪性腫瘍発生メカニズム  
の解析」などをおこなって  
まいりました。医療の進歩  
に伴い病理診断の重要性が  
増している一方で、病理学  
に出局する医師は未だに少  
なく、また病理学研究に没  
頭できる時間や場所の全国  
的な減少により、病理学の  
衰退が危惧されています。  
そのような状況において、  
このたびの獨協医科大学と  
のご縁には深く感謝いたし  
ており、今後は栃木の地に

において、小細胞肺癌など高  
悪性神経内分泌腫瘍に対す  
る新たな治療戦略の創成に  
向けた研究に邁進するとと  
もに、将来の日本の病理学  
を担う有能な病理学研究者  
また基礎医学研究を基盤に  
持ちevidence-based medicine  
を実践できる研究医、リサ  
ーチマインドを持ち続ける  
臨床医の育成に、情熱を持  
って取り組んでいく所存で  
あります。あのはな同窓会  
の先生方には、今後とも変わ  
らぬご指導、ご鞭撻、ご支  
援を賜りますよう、重ねが  
さねお願い申し上げます。

### 帝京大学医学部

#### 形成・口腔顎顔面外科学講座 主任教授



小室 裕 造 (昭61)

平成28年4月1日付けで  
帝京大学医学部形成・口腔  
顎顔面外科学講座主任教授  
を拝命いたしました。就任  
にあたっては多くの先生方  
のご支援を賜り厚く御礼申  
し上げます。私は、昭和61  
年に千葉大学を卒業しまし

た。形成外科を志しました  
が、その当時本学に形成外  
科がまだ設立されていなか  
ったこともあり、外に研修  
先を求め東京大学形成外科  
教室の門をたたきました。  
東京大学では波利井清紀先  
生(東京大学名誉教授、杏  
林大学教授)をはじめとす  
る多くの先生方にご指導賜  
り、東京都立駒込病院、総  
合病院国保旭中央病院、東  
京警察病院などで研修を行  
ってきました。

平成10年より順天堂大学  
形成外科へ移り、以後、大  
学人としてのキャリアを積  
んでまいりました。順天堂  
大学では脳神経外科の先生  
方と頭蓋縫合早期癒合症に  
対するチームを構築し、平  
成11年には米国エール大学  
に留学の機会を頂き私が専  
門としております頭蓋顎顔  
面外科領域の診療技術を深  
めることができました。こ  
の分野では頭蓋骨の骨延長  
術など新しい術式を開発し  
内外で報告し、研究では顔  
面骨の骨形成や人工骨の研  
究などを行ってまいりまし  
た。また再建外科としての  
役割が大学病院では重要と  
考え、食道・胃外科におけ  
る食道再建、耳鼻咽喉科で  
の頭頸部腫瘍切除後の再建  
や乳腺科の乳房切除後の乳  
房再建など外科系各科の癌  
切除後の再建に力を注ぎ、  
肝胆膵外科の生体肝移植に  
おける肝動脈再建のお手伝  
いもさせていただきました。  
平成22年に順天堂大学浦安  
病院形成外科・美容外科教  
授を拝命し、ゼロから形成  
外科の立ち上げに携わり浦  
安の地に形成外科を根付か  
せ一定の使命は果たせたと  
のと考えております。

平成27年に当時の平林慎  
一教授にお声がけいただき  
帝京大学医学部形成・口腔

顎顔面外科へ移り、平成28  
年4月より主任教授として  
務めさせていただいており  
ます。  
私は頭蓋顔面領域の先天  
異常、顔面骨折を含む顔  
面外傷のほか、眼瞼下垂を  
中心とした瞼の若返り手術  
などを専門にしております。  
最近の形成外科は扱う疾患  
が大きく変化しており乳癌  
術後の乳房再建、糖尿病性

平成28年4月1日付けで、  
帝京大学医学部麻酔学教授  
(帝京大学ちば総合医療セン  
ター麻酔科科長)に昇任し  
ました。同窓会の皆様にご  
挨拶が遅れ、誠に申し訳あ  
りませんでした。  
皆様は、大学病院の教授  
の主な仕事は何だとお考え  
ですか。やはり診療・研究・  
教育でしょうか。実は目下、  
私の最も重要な業務はバイ  
ト麻酔科医の手配です。現  
在当院麻酔科の常勤医は、

潰瘍に代表される足の難治  
性潰瘍の症例などが増加し  
ているのが特徴です。  
卒業すぐに母校を離れて  
しまひあのはな同窓会とは  
疎遠でありましたが、今後  
同窓会活動にも参加させて  
いただきたいと考えており  
ます。皆様のご指導ご鞭撻  
を賜りますようお願い申し  
上げます。

### 帝京大学ちば総合医療センター

#### 麻酔科学 教授



田垣内 祐 吾 (平元)

ペインクリニックの先生を  
含めても4名しかいません。  
バイトを入れないとオペ室  
が到底回らないのです。私  
の恩師、千葉大学麻酔科学  
講座の磯野史朗教授からは  
陰に陽にご支援を頂いてお  
りますが、マンパワー面では  
千葉大学も恵まれておら  
ず今以上の支援を頂くのは  
難しいのです。

それならオペを減らして  
身の丈にあった手術件数に  
したらいと思われれるかも  
しれませんが、そうもいき  
ません。現在の保険医療制  
度にあつて病院が収益を上  
げるには、何を措いても手  
術が第一です。そして手術  
には麻酔が必要ですから、

国家試験の勉強では添え物  
扱いであつた麻酔科が、俄然  
存在感を増してくるのです。  
就任以来、バイトではな  
くて常勤のスタッフが欲し  
いと思ひ、千葉大学はもち  
ろん私が知るかぎり全国の  
麻酔科の知り合いに声をか  
け、人員を出してもらえな  
いかと頼んで回りました。  
その結果、人手を欲しがっ  
ているのは当院だけではな  
く、全国各地の病院が同じ  
悩みを抱えていることがわ  
かりました。全国の大学病  
院中、バイト麻酔科医を入  
れている病院は約4割に上  
るといふ調査もあります。  
このバイト麻酔科医がま  
た悩みの種です。彼らは基  
本的に5時までの仕事なの  
に、週5日働くと、夜間・  
休日対応などしくなくとも、  
常勤である我々の2/3倍  
の報酬を手にする計算にな  
ります。そんな事情からか、  
専門医を取得したあたりで  
常勤を辞め、フリーランス  
に転じる人も多いようです。  
しかしこの厚遇はバイト医  
対常勤医、あるいは他科の  
医者との間に不公平感を生  
み出します。私などは日本  
の保険医療制度に風穴をあ  
ける一因になるのではない  
かと心配してしまひます。  
高給を取つてもきちんとし  
た仕事をしてくれればまだ



しませんが、ご多分にもれず、バイト医の実力は玉石混交、いつ石が来るかもわかりません。しかし彼ら抜きに臨床は成り立たず、非常に悩ましい問題です。

一方この地域で手術を必要としている患者数は大変多いのです。しかも当院には声望高い外科系医師が大勢いますから、麻酔科の事情によって彼らの腕を振るう機会を減らしてしまつては痛恨です。そんなわけで、たとえバイト医の手配といえど天命の一部と考えて取り組んでおります。

私は平成元年卒で、痛みの治療に心理的手法を取り入れた故水口公信名誉教授のアプローチに感銘を受けて麻酔科に入局しました。県内外の関連病院で研修を受け、大学に戻って先代の西野卓教授（現千葉大学名誉教授）に自由闊達な雰囲気の中でご指導を受けたことが研究者としての礎となりました。更に磯野教授に師事したことで大きく成長することができ、Johns Hopkins大学への留学も叶いました。私の教授就任は前教授下山恵先生、当センター院長和田佑一教授のお力添えがなければ到底ありえませんでした。それ以外にもここには到底書き尽

くせないほど多くの方々のお世話になったことに感謝し、そのご恩に少しでも報

### 千葉県立保健医療大学

健康科学部看護学科 教授



小川 真 (昭57)

本年4月1日付けで千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科教授を拜命致しました。田邊政裕学長からお誘いをいただき、横須賀收教授からご許可を賜り旧第一内科同門の松谷正一先生の後任として赴任した次第です。卒業34年のほとんどを千葉大学で過ごし、その間、横須賀教授をはじめ臨床各科の先生方のご指導・御協力を賜り、また大学院生の指導をいただいた基礎分野の先生方にこの場を借りて心より御礼申し上げます。

いることができるよう頑張りたいと思います。

時、(のち名誉教授)のもとで免疫学の手ほどきを受け、また内科学の基本も教えて頂きました。奥田先生のご指示もあり研究テーマは肝臓の免疫となり、マウスに免疫操作によって作成した肝炎モデルを用いて研究を始めました。平成元年頃からようやく腎臓病の診療・研究にシフトし腎生検に基づく診断・治療システムを軌道に乗せることができ、平成19年からは附属病院腎臓内科医長、平成24年には同じく附属病院診療教授を拜命しております。移動の決定がぎりぎりだったこともあり、各科の先生方からはご心配をいただきましたが、当分は非常勤講師として週1回の外来を継続し各科からの対診依頼に対応させていたいております。

さて赴任した千葉県立保健医療大学は平成21年4月、千葉県立衛生短期大学と千葉県立医療技術大学が統合され、県内唯一の公立四年制大学として出発いたしました。看護学科、栄養学科、歯科衛生学科、リハビリテーション学科(理学療法専攻、作業療法学)からなり、人材育成と共に県の健康づくり政策に反映できるような実践的研究を行うことを理念としております。千葉県の看護師他の医療スタッフ数は人口あたりに換算すると全国平均よりかなり少なく、優秀なスタッフをコンスタントに育成することは本学の重要な責務であります。現在担当しているのは内科学全般、更に老年医学の講義で、今まで医学部腎臓内科の教育のみ担当していた者としては、当初はとまどうことも多かったのですが、学生は皆真面目で、今は手ごたえを感じております。附属の病院がないため、学生実習は県内の各病院にお願いしております。同窓の先生方にはご多忙のところ真に恐縮ですがご協力を賜れば幸いです。教育面では更に田邊先生からご推薦をいただき、放送大学での特定看護研修講義を一部担当することになっております。

す。施設面や人事の問題も含め解決すべき問題は多いのですが、田邊学長はスタッフを激励し先頭に立っておられます。及ばずながら

### 千葉県立保健医療大学

健康科学部栄養学科 教授



東本 恭 幸 (昭59)

私も全力で努力するつもりでおります。引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

代わりに、自分で調べなければならぬことは医学中央雑誌の第一巻に遡るまで徹底的に調べさせ、それらの中からなにか一つ新しいことを見い出させるという首尾一貫した教育を受けたことは、その後の自分にとって大変な財産となりました。研究テーマに選んだ胆道閉鎖症や小児内視鏡については、高橋教授と栗山裕先生に手とり足とりきめ細かなご指導を賜り、様々な成果を手にしたことに深く深く感謝しております。小児外科の臨床一筋に過ごした三十二年間、数多くの手術や臨床研究に携わるとともに、たくさんの若い先生方の指導にあたらせていただくこともできました。自分の技術や考え方を幾ばくかでも継承できていれば嬉しく存じます。

その一方でどうしても助けられなかった子どもたちのことは頭から離れません。その多くは、急性期は乗り越えられたものの栄養の維持が困難な症例でした。そんなときいつも思い返されるのは、入局して間もない頃、吉田教授が八百グラム足らずの壊死性腸炎の未熟児を完全静脈栄養でみごとに救命されたことです。今から三十年以上も前のことですが、それからというもの、先生の処方内容を書き写しては電卓をたたいて組成を勉強し、そのおかげもあつて兵庫県立こども病院と千葉県こども病院でそれぞれ初めて在宅静脈栄養への移行を果たすことができました。また十年前からは、こども病院で全科型栄養サポートチーム(NST)を率いて職種横断的なチーム医療に携わり、短腸症候群をはじめとする様々な病態の栄養管理にはNSTが欠かせないものとなりました。さらに重症心身障がい児に術後早期経腸栄養法を導入したところ、窒素バランスが極めて早期に正となり、合併症なく入院日数を短縮できることも見い出しました。まさに臨床栄養の威力というものを再認識した次



第です。  
現在我が国では、世界中のどの国もが経験しえない速さで超高齢化社会が進行しており、それに伴って治す医療から支える医療へのパラダイムシフトを迎えています。治す医療でも支える医療でも、その基盤となるのは栄養状態の維持であり、これからは臨床に強い

### 東邦大学医療センター佐倉病院

内科学神経内科 教授

神原 隆次 (旭川医大・昭59)



このたび、2016年4月1日付けで、東邦大学医療センター佐倉病院内科学神経内科教授を拝命致しましたので、ご報告申し上げます。東邦大学は、医・薬・看護・理学部の4学部を擁する総合大学であり、東京都大田区の医学部大森病院、目黒区の大橋病院、千葉県の佐倉病院の3病院から成っています。神経内科は、里吉病を世界で初めて報告された里吉栄二郎先生を初代教授とする、伝統のある

管理栄養士のニーズがますます高まるものと信じております。まだまだ浅学非才の身ではありますが、これまでの経験を生かしてこれからの医療にかけ替えのないう人材の育成に尽くしてまいりますと存じます。今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

教室です。

私は、昭和59年に旭川医科大学を卒業し、著書「神経症候学」で高名な平山恵造教授に憧れ、すぐに千葉大学神経内科学教室に入局しました。59卒の同期と共に、神経症候と生理学・自律神経・CT・導入された間もないMRI・さらに病理を検討し、当時治療法が十分に確立していなかった、神経難病と格闘してまいりました。平山先生の回診とカンファレンスは、優しくも厳しいものであり、前日仲間で徹夜して準備をしたことが思い出されます。その後、鹿島労災病院を経て大学に戻った際、服部孝道教授から、自律神経の研

究を薦めて戴いたことが、現在も私のライフワークになっております。以後、安田耕作先生をはじめ、泌尿器科先生方と一緒に仕事をさせて戴いております。1997年から約1年間、ロンドン大学神経研究所・国立神経病院(Queen Square)のCare Fowles教授の下に留学する機会を得、PETによる膀胱の機能的脳画像に取り組みました。その後、千葉大学第二内科の大先輩である、白井厚治先生、鈴木康夫先生より、佐倉病院に神経内科を設置したいとお話があり、准教授として2007年に呼んでいただきました。今回、佐倉病院神経内科10年目の節目の年に、現職を拝命し、大変有り難く思っております。その後、研究面では、消化管自律神経、神経難病のバイオマーカー、疾患修飾治療の試みとテーマを広げ、伝統を伝え、若手を育成し、地域で頼りになる神経内科をめざして頑張っております。平成18年に服部先生が会長として日本脊髄障害医学会を開催されてから10周年となる本年11月に、同学会を幕張で開催させて戴くことになりました。服部孝道名誉教授、同期の桑原聡教授をはじめ、いままでお

### 国際医療福祉大学三田病院

消化器センター 教授

加藤 厚 (平元)



世話になった千葉大学医学部同窓の諸先輩、同僚、後輩の先生方には大変感謝し、お願い申し上げます。平成28年4月1日付けをもちまして、国際医療福祉大学三田病院教授を拝命いたしました。まず初めに、るのはな同窓会会員の皆様をはじめ、多くの方々にご支援賜りましたこと、心より御礼申し上げます。私は平成元年に千葉大学を卒業後、当時奥井勝二教授が主宰されていた千葉大学医学部第一外科学教室現在の臓器制御外科学)に入局しました。千葉労災病院、松戸市立病院、大網白里町立国保郡南病院(現大網白里市立国保大網病院)、国立千葉病院(現国立病院機構千葉医療センター)での研修を経て、平成5年に千葉大学に戻って参りました。このとき教室を主宰されていたのが中島伸之教授でし

ております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。た。当時の肝胆道研究室(第5研究室)の門をたたき、肝胆道系の基礎研究を始めました。研究室は宮崎勝先生がとりまとめており、まだ黎明期であった肝胆道外科の未来に魅力を感じたのが研究室に入った動機でした。その後平成13年に宮崎先生は臓器制御外科学の教授となり、現在に至るまで宮崎先生に師事し肝胆膵外科の臨床および研究を行って参りました。肝細胞癌における多剤耐性遺伝子MDR1の発現に関する研究で学位を取得し、平成11年から約3年間、リサーチフェローとして米国ケンタッキー州のルイビル大学外科科Michael J. Edwards先生、Alex B. Lentich先生のもと、肝阻血再灌流障害や肝再生などの基礎研究を行いました。貴重な留学経験は研究の大切さとおもしろさを学ぶ良い機会となりました。平成14年に帰国して肝胆

膵外科領域の臨床、研究、教育に携わって参りました。肝胆膵領域の悪性腫瘍は外科切除が唯一の根治的治療法であるものの進行癌の状態で見られることも多く根治切除が可能な症例が限られています。こうした切除不能進行癌に対して化学療法による腫瘍の縮小により根治切除を目指す、いわゆるコンビジョン手術を試み、特に胆道癌の分野においてその有用性を報告してきました。今後も肝胆膵領域の悪性腫瘍の根治および予後向上を目指し、外科治療を中心とした集学的治療について研究及び臨床に邁進していきたいと考えています。国際医療福祉大学は平成29年4月に成田市に医学部開学のための準備を進めています。医学部設置が認められれば、東北薬科大学とともに約40年ぶりの新設となります。成田市と共同で「国際医療学園都市構想」として国家戦略特区の事業として認められ、既存の医学教育とは異なる英語による医学教育、海外からの留学生の受け入れなど、国際性豊かな教育を行うことを予定しています。国際医療福祉大学三田病院で臨床を行いな

向けて鋭意取り組んで参りたいと考えています。千葉県に医学部が新設されるにあたり、千葉大学医学部附属病院をはじめ、地域の医療機関、福祉施設などとも連携をとりながら、地域医療の構築にも努めていく所存です。のはな同窓会の先生方には、今後ともご指導、ご鞭撻、そしてご支援をいただけますようお願い申し上げます。

#### 千葉大学校友会総会のお知らせ

日時：平成28年11月3日(木・祝日)  
14時から14時30分  
場所：千葉大学けやき会館大ホール  
(千葉大学西千葉キャンパス)  
\*総会終了後、イベントを予定しております。



# 病院長就任挨拶

## 国際医療福祉大学三田病院

病院長 宮崎 勝 (昭50)



本年2016年3月末をもって千葉大学大学院医学研究センター制御科学教授を退任し、この4月より東京都港区三田にある国際医療福祉大学三田病院の院長に就任しました。この三田病院の前身は東京専売病院であり、2005年に国際医療福祉大学に移管されたあと、2012年に新たな病院の建物が建設され現在の病院となっています。

私は1975年(昭和50年)千葉大学医学部を卒業後第一外科に入局、その後外科へ研修を関連施設で行った後に大学に戻り、1981年よりトロント大学外科へ留学した期間を除き千葉大学には約40年間ほど勤務させていただきました。2001年よりは臓器制御外科教室の教授として臨

床・研究・教育に従事してまいりましたが、三田病院に赴任してからも自身のライフワークである肝胆膵外科の手術は続けております。病院長としてまた大学の副学長の責も担っているため臨床以外の仕事も多くありますが、千葉大学医学部附属病院長時代に経験した臨床業務と病院長業務の振り分け、バランスの取り方は多少慣れていく自信があります。何かとこれまでこなしておりました。三田病院は東京タワーのすぐ近くで芝公園と隣接した都心の真ん中に位置する急性期の11階建ての病院です。病院長室(5階)の窓からはタワーの夜景が綺麗に見え、特等室の部屋で仕事をさせてもらっています。外科手術を行う手術室は立替工事が終わったばかりであり、6階に10室の手術場を持つ手術室が備えられており最新鋭のハイブリッド手術室も備えた近代

的な環境です。昨年度は3000件を超える手術件数をこなしています。同階には6床のICUもあり病院の標榜診療科は38診療科および12の臓器別センターを開設しております。多くの常勤医師(130人を越える)がおり出身大学は東京大学、慶応大学、慈恵会医科大学、東京医科大学といった近隣の大学出身者以外にも千葉大学を含めた多くの国立大学出身者も勤務しており、多様性溢れる環境で構成されています。私の前任の三田病院長は慶応大学医学部循環器内科教授であった小川聡先生が務められておりその後任として私が赴任しました。

ろのはな同窓会の先生方で東京に勤務あるいは開業されている先生も多いかと思えますが、是非多くの患者さん、特に肝胆膵の外科治療を要する疾患を持った患者さんがいらっしやいましたらご紹介いただけたら幸いです。千葉大学から私の赴任に合わせて4月より加藤厚先生も消化器外科の教授として赴任してもらっています。また外科専門医の東原琢医師にも外科チームの一人として今回勤務してもらっておりまして安心してご紹介いただけたらと思います。ろのはな同窓の皆さんにはお近くにお出

でいただいた際には気楽に三田病院にお立ち寄りいただけたと存じます。

ろのはな同窓会および千葉大学医学部の出身者として

## 化学療法研究所附属病院

病院長 佐伯直勝 (昭50)



千葉大学ろのはな同窓会の皆様のお力添えのおかげで、今年3月末に28年間の千葉大学医学部での仕事を無事終えました。この4月より、市川市にある化学療法研究所附属病院の院長に就任いたしました。

公益財団法人化学療法研究会化学療法研究所附属病院は、1939年、当時国民病といわれた結核の化学療法研究を目的に設立されました。その社会的重要性から、三井財閥の支援を受ける一方、明治天皇ゆかりの「恩賜館」を宮内省(当時)より下賜されるなど、結核の治療に対する多大な貢献が認められてまいりました。

て東京都港区の三田病院でも大いに頑張っており、たいと思っておりますので皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2005年には、国際医療福祉大学の臨床医学研究センターに指定され、同大を病院をはじめとするグループ関連施設と密接に連携しながら、地域密着型の病院として活動しております。

外来診療においては、特に消化器科、呼吸器科、循環器科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科などで専門診療に力を注いでおります。また、一般診療のほか、外来化学療法室、外来透析部門を備え、高度医療機器による迅速な対応により、質の高い医療をご提供しております。人工透析センターでは一部午後の透析も導入し、糖尿病などに合併する腎不全の診療体制を強化いたしました。各診療科におきましては、増加傾向にあるがんの診療ニーズに対しても、安全・的確な診療と生活管理に万全を期しております。また当院は、地域

などの特定健診やがん検診、人間ドック、脳ドックも実施しております。生活習慣病、がん、脳卒中、認知症などの早期診断は健康の基本ですので、ぜひご利用いただければ幸いです。

病棟においては、設立以来行ってきた結核診療のほか医療型療養病棟も維持し、従来の使命も果たしております。さらに、2013年に新棟を建て替え、新たに回復期リハビリテーション病棟を新設いたしました。より一層地域のニーズに応えられるよう、体制を強化してまいります。

また、成田市に国際医療の拠点をめざし、2016年4月に国際医療福祉大学成田キャンパス(成田看護学部、成田保健医療学部)が

## 獨協医科大学越谷病院

病院長 兵頭明夫 (昭52)



2016年4月1日付けで獨協医科大学越谷病院院長を拝命致しました。獨

開設いたしました。2017年4月には医学部の新設が、2020年には国際医療福祉大学成田病院の開設も予定しております。地理的にも近い当院には、国際医療福祉大学の関連施設としてこれまで以上に重要な役割が期待されています。

当院の伝統的な「至善至愛」の理念を引き継ぎ、「やさしい心遣い」として反映し、使命感と責任感を持って職員一同努め、都市型の診療施設として地域の病診連携にも一層尽力していくことを目指しています。

千葉大学ろのはな同窓会の皆様には、今後とも一層のご指導とご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

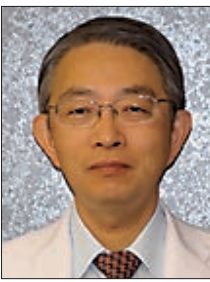
協医科大学越谷病院は栃木県壬生町にある獨協医科大学の附属病院の一つで、埼玉県越谷市に1984年6月に開設されました。当時は237床の病院でしたが、東武スカイツリーラインとJR武蔵野線が交差する新越谷駅・南越谷駅から徒歩



5分以内という好立地と、埼玉県東部医療圏を含めた200万人近い周辺人口を背景にその後増床を続け、2001年1月には723床となり、現在は計23科、および中央部門19と救命救急センター、腎・予防医学センターからなる埼玉県東部地域の基幹病院として、地域の住民の皆様方に高度で安全な医療を提供する一大医療施設となっています。また、新たに隣接地に411床の病棟を有する新棟建設が始まり、来年(2017年)10月の竣工後は2000床の増床となり、923床を有する一般病床としては埼玉県随一の規模の病院となる予定です。さらに獨協医科大学の附属病院として、診療のみならず、教育、研究においても多くの役割が期待されており、2015年4月からは武蔵野線吉川美南駅近くに附属看護専門学校三郷校を開校するとともに、獨協医科大学の学生及び卒業後臨床教育はもとより、本年から先端内科学、先端外科学という研究科を持つ大学院も併設され、より高度な医学教育も担うことになりました。研究においても臨床研究が中心となりますが、今後は近隣の理料系大学とも連携した共同

研究の推進が期待されるどころです。さて、私は1977年(昭和52年)に大学卒業後直ちに牧豊先生(昭24)が初代脳神経外科教授を務めていた筑波大学に入り、初代レジデントとしての研修後は脳神経外科講師として脳血管障害を専門とした基礎・臨床の研究を行うとともに、診療・教育に従事致しました。1999年5月から1999年5月からは吉井與志彦教授(昭44)が主宰する琉球大学脳神経外科に移り、助教授、診療教授として9年間を過ごし、2008年5月からは獨協医科大学越谷病院脳神経外科主任教授を務めております。2012年からは副院長を、今回院長を任命致しました。現在獨協医科大学越谷病院には千葉大同窓の教授はおりませんが、私が着任する2年前まで泌尿器科主任教授として安田耕作先生(昭42)が務めておられました。獨協医科大学としては学長の稲葉憲之先生(昭47)、副学長の福田健先生(昭48)、私の大学時代の同級生である堀雄一先生(昭52)を始め、多くの千葉大同窓の先生方がおられ、私の教授選考の際には非常にお世話になりました。また昨年12月までは本年1月

から千葉大学薬理学教授として戻られた安西尚彦先生(平2)がおられ、精力的に研究をされていきました。今年新たに山西友典先生(昭57)倉沢和宏先生(昭58)が主任教授に就任され、獨協医科大学における千葉大学の人脈は確実に太くなってきています。既に述べましたように越谷は埼玉県東部地域にあり、



千葉県循環器病センター  
病院長 村山 博和 (昭55)

埼玉県には埼玉ののな会として多くの同窓生が活動しております。今後病院長として獨協医科大学越谷病院と獨協医科大学のさらなる発展に貢献致したいと思っておりますので、多くの同窓の先生方との交流を深めますとともに、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。願ひ申し上げます。

本年4月より病院長に就任いたしました。私は研修医として心臓血管外科を勉強する機会を得たのが縁となり昭和61年の着任より現在まで勤務しております。千葉県保健医療計画(平成23年〜平成27年版)を見ますと、「県立病院が担うべき具体的医療機能は、がん医療、循環器医療、小児医療、リハビリテーション医療、救急医療、精神科医療等の高度専門的な医療に取り組むことである」と明記されています。開設以来、循環器系疾患、脳神経系疾

一般診療部門が増強されるとともに脳神経系の専門診療チームが加わり、平成12年に千葉県循環器病センターとして新たなステップを踏み出しました。脳腫瘍等に対するガンマナイフ治療もこの年から開始されていきます。

獨協医科大学越谷病院脳神経外科主任教授を務めております。2012年からは副院長を、今回院長を任命致しました。現在獨協医科大学越谷病院には千葉大同窓の教授はおりませんが、私が着任する2年前まで泌尿器科主任教授として安田耕作先生(昭42)が務めておられました。獨協医科大学としては学長の稲葉憲之先生(昭47)、副学長の福田健先生(昭48)、私の大学時代の同級生である堀雄一先生(昭52)を始め、多くの千葉大同窓の先生方がおられ、私の教授選考の際には非常にお世話になりました。また昨年12月までは本年1月

人事異動

<p><b>講師</b> 法医学 猪口 剛 (平25院)</p> <p>同領域より イノベーション再生医学 高山 直也</p> <p><b>他大学教授</b> 獨協医科大学病院 排泄機能センター 山西 友典 (昭57)</p> <p>獨協医科大学教授より 神崎 哲人 (昭55)</p> <p><b>准教授</b> 千葉科学大学教授より 小野寺 淳 (平18)</p> <p>同領域助教より 帝京大学医学部 形成・口腔顎顔面外科科学講座 小室 裕造 (昭61)</p>	<p>三重大学 遺伝子・免疫細胞治療学 渡辺 隆 (昭61)</p> <p>帝京大学 ちば総合医療センター ペインセンター 青江 知彦 (昭62)</p> <p>獨協医科大学 病理学 矢澤 卓也 (筑波大・昭63)</p> <p>国際医療福祉大学三田病院 消化器センター 加藤 厚 (平元)</p> <p><b>病院長</b> 獨協医科大学越谷病院 兵頭 明夫 (昭52)</p>
--	--

の は な 同 窓 会 賞 受 賞 候 補 者 募 集 要 項

第二二回(二〇一七年度)の は な 同 窓 会 賞 の 受 賞 候 補 者 を 左 記 に よ り 募 集 いた します。

- 一、受賞対象者
  - ① 社会貢献賞  
本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。
  - ② 功労賞  
医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学のの は な 同 窓 会 に 多 大 の 貢 献 を し た 者。
- 二、表彰
  - ① 社会貢献賞 (三件以内) 盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。
  - ② 功労賞 (二件以内) 盾および賞金十万円を贈呈します。
- 三、応募方法  
所定の申請用紙により、二〇一六年十二月一日から二〇一七年一月三十一日までに申請して下さい。
- 四、受賞者の決定  
選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は二〇一七年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、の は な 同 窓 会 報 に 掲 載 し ます。
- 五、問い合わせおよび申請用紙請求先  
千葉大学医学部内、の は な 同 窓 会 事 務 室  
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。



患に対する高度（政策）医療を全県レベルで広く行っていくセンター機能に加え、内科等の一般診療科を中心とした救急や地域中核病院機能の双方を併せ持った病院として医療を提供してきました。平成26年4月から

県立東金病院の機能移転により糖尿病代謝内科部門、腎臓透析部門も加わり、高度医療部門と一般部門双方において診療の幅が広がることとなりました。高度医療分野では昨年度末から院内組織横断的なハートチーム（心臓カテーテル治療部）

が中心となり昨年度よりTAVI（経カテーテル的大動脈弁植え込み術）を開始し、今年度は新たな取り組みとして頭蓋内電極設置術や焦点切除術をはじめとする難治性てんかんに対する外科治療の開始に向けた準備を進めております。また、総合診療専門医教育プログラムの基幹施設としての立ち上げを準備するなど、救急や教育体制を含めた一般診療部門の充実も目指しています。

少子高齢化や2025年問題に向けた地域包括ケア構想の推進など、変化していく医療環境の中で県立病院としての使命をはたすべく「一人ひとりを大切にす

る医療」を実践し、持続可能な病院組織を築いていくよう尽力してまいりたいと存じます。おのほな同窓

国保直営総合病院 君津中央病院

院長 海保 隆（昭57）



平成28年4月より鈴木紀彰前院長（昭50、現名譽院長）から引き継ぎ、病院長を拝命しました。私は昭和57年千葉大学を卒業し、当時奥井勝二教授が統括されていた旧第一外科（現臓器制御外科）に入局。大学で1年研修した後、県西総合病院（茨城県）、君津中央病院、八日市場市立病院（現

会の先生方におかれましては今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

像診断、術後管理等を中心に学びました。平成7年4月に故中島伸之教授の御計らいで当院へ赴任し、消化器外科、特に専門の肝胆膵外科を中心に仕事をさせていただきました。当時一般病院ではまだあまり肝胆膵の高難度手術は行われていない時代であり、田中壽一先生（現一般社団法人君津健康センター理事長）のご指導のもと大学で学んできたことを実践させていただき、忙しくも楽しい時代でした。

県内では県病院局長の矢島鉄也局長、松戸市立病院の烏谷博英院長、東松戸病院の岩井直路院長、千葉市立青葉病院の山本恭平院長、大学内では分子ウイルス学の白澤浩教授、歯科口腔外科の丹沢秀樹教授らと大学時代同級になります。私が当院に赴任してもう22年が経ちますが、この間医療を取り巻く環境が大きく変わ

りました。当院も「丘の上」の旧病院から、平成15年夏に現在の新病院へ移転し、変遷する医療環境に対応すべく努力してまいりました。

現在、医師数の増加、手術数の増加に対応するため、新診療棟の増築計画が進んでいます。また、当院は県のドクターヘリの基地病院として、千葉県の3次救急医療に多大な貢献をしております。現在ヘリポートより救急室への患者搬送は、救急車へ乗り換え、搬送しておりますが、新診療棟が完成すると、ヘリポートより救急室まで救急車搬送無しでダイレクトに結ばれることとなります。

また、当院は平成16年より臨床研修指定病院として多くの初期研修医を育ててきました。当初君津プログラム5名、千葉大プログラム4名の計9名でスタートしましたが、長年の指導医の先生方の努力により、徐々に研修病院としての人気が上がっており、現在1年次の君津プログラム14名、千葉大プログラム4名の計18名、2年次と合わせ30名を超えるまでになっています。もはや当院の医療は初期研修医なしでは回らなくなっており、研修医が将来大学病院等で

各科専門医として成長し、また当院に戻り地域医療に携わる機会も増えてきました。

平成9年12月にアクアラインが開通し、木更津より横浜、東京方面へのアクセスが格段に改善しました。特に羽田空港へは30分ちょっとで行けるようになり、学会等出張の際は大変便利です。アクアラインの社会実験ETC割引800円効果により、木更津市は現在全国でも数少ない地方における人口増加地域となっています。

最後に、おのほな同窓会の皆様のご健康を祈願するとともに、これからも当院への応援を宜しくお願い申し上げます。

**平成28年度 総会において選出 名譽会長**

伊藤 晴夫 氏（昭39）  
 唐澤 祥人 氏（昭43）  
 奥村 康 氏（昭44）  
 宮崎 勝 氏（昭50）

ご寄附のお願いと寄附金の税額控除のお知らせ

猪之鼻奨学会は、大正4年(1915年)に創立されて以来、多くの方々からの善意の寄附金により奨学事業を実施してきております。平成24年4月1日「公益財団法人」として、新たにスタートした猪之鼻奨学会は、「定款」に謳いますよう、医学及び薬学の研究を奨励することを目的として、研究事績の優秀な者に研究費の補助、そして学資の欠乏を告げた学生に学資の貸与を行ないます。これらの事業を遂行するために、どうか皆さまのご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

一口5,000円ですが、ご都合により何口でも結構です。ご寄附にご賛同いただける方は下記口座にお振込みください。なお、「特定公益増進法人化にともなう寄附金の税額控除」に関しては、公益財団法人へ移行したことにより、本会が税制上の優遇措置の対象となる特定公益増進法人となりました。従って、個人によるご寄附の場合、所得の40%を上限として、ご寄附金額から2千円を差し引いた金額が、その年の課税所得から控除されます。法人によるご寄附の場合、一般の寄附金とは別枠で、特別損金算入限度額まで、損金の額に算入することが認められます。今後とも、皆様方の一層のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

ゆうちょ銀行  
 口座番号 00180-3-59844  
 口座名 公益財団法人猪之鼻奨学会  
 [お問い合わせ先]  
 Tel & Fax 043-226-2059  
 E-mail : ishougakukai@chiiba-u.jp



受章の挨拶

瑞宝重光章

平成28年春の叙勲をうけて

山 浦 晶 (昭40)



突然の叙勲の知らせに驚きました。受章の式典に臨み、その後ももろもろの行事があつて、ようやく落ち着いたところなんです。今年4月も下旬になって突然、1年前に退任した千葉県立保健医療大学から、「叙勲の件は関係省庁を通りました。5月10日は開けておいてください。急ぎ返事をいただきたい。」と、連絡がありました。「参内していただきなると、大変困ります。」という雰囲気、私も狐につままれた気持ちで予定を確認したものでした。

私は千葉大学を去ってしばらくした頃、叙勲に関する打診が脳外科教室からあり、その際は「いりません」と返答しました。叙勲には実績を集めるなどかなりの作業が必要と認識していましたが、私自身叙勲とはどんなものかほとんど知らなかったこともあり、この度はそうした打診も逡巡の間もなく、結果だけが突然やってきたのです。後になって、叙勲のために20ページにもわたる勲章審査票申請書に相当する)を千葉県立保健医療大学の担当官が作成してくれたことを知り、その労に感謝しております。その後、モーニング着用で皇居に伺うこと、車は北詰車寄せにつけること、勲記は安倍晋三総理大臣から頂き、瑞宝重光章を胸に陛下に拝謁することなどの詳細な式次第が届けました。受章の日には次第通りに式はすすみ、無事に受章することができました。残念ながら、半生を共に歩んだ妻を同伴できなかったこと

す。国立大学や県立大学へ長きにわたり無事に奉職できたことに対する叙勲と考えると、実に多くの方々のおかげがあつての叙勲なのだとしみじみ思い、感謝の気持ち

瑞宝中綬章

瑞宝中綬章を受章して

野 尻 雅 美 (昭36)



私は平成28年春の叙勲で瑞宝中綬章受章の栄に浴しました。私が所属していた看護学部は昭和50年に新設された若い学部で、また私は学部長などの要職を経験していないことから、叙勲とは縁のないものと思つていました。ところが青天の霹靂で、この栄誉が天から降って地から湧いてきたのです。これには千葉大学長先生はじめ関係各位のご指導とご支援があればこそと心から感謝を申し上げます。有難うございました。

私は傘寿になった現在、これからの生き方についても述べてみます。私は昭和36年に医学部を卒業、昭和37年に国立東京第一病院にてインターンを経て、昭和38年に大学院医学研究科社会学系公衆衛生学専攻に入学。修了後、昭和41年より国立東京第一病院にて内科医として歩み出しましたが、教職への声がかかり、昭和46年に千葉大学養護教諭養成所助教授(予防学)に任官、昭和50年に山形大学医学部助教授(公衆衛生学)に配置換え、昭和54年に看護学部教授に昇任となり、亥鼻山に戻ったのです。

看護学部では基礎保健学講座(その後、保健学講座、さらに地域看護学講座保健学教育研究分野に改名)を23年間主宰し、看護学の基

礎教育に専念しました。教科目は保健学、疫学、公衆衛生学、環境保健、社会人類学(地球環境論)などです。平成14年、定年退官後、桜美林大学大学院国際学研究所老年学専攻教授となり大学院生の指導に特化しました。私の研究生生活は大学院時代から成人病(生活習慣病)予防に興味を持ち、当時、流行であつたりリスクファクターの疫学研究が主要なテーマでした。研究フィールドは西伊豆町の農漁村で、同時に地域健康管理にも関与しました。継続は力なり!と、40年余にわたる西伊豆研究の成果は日本公衆衛生学会等に逐一発表してきました。私の第一のライフワークです。

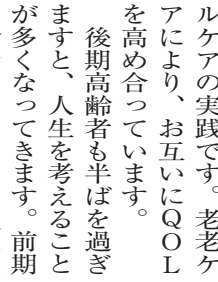
教職に転向してからは、保健学の視点から「健康とは何か」を常に考えておりました。それが1998年、WHOの健康の定義にSPIRITが入つてからは、その問いに一段と悩まされましたが、その結果ははからずもQOL座標の発見となりました。この延長線上にQOL座標理論があつたのです。(本誌164号、171号)。第二のライフワークです。報告は日本健康医学

会誌にあります。私の老後の生活はQOL座標理論の実践です。平成19年より日光市郊外の介護老人保健施設長として赴任

瑞宝中綬章

瑞宝中綬章を受章して

武者 廣 隆 (昭40)



この度は図らずも春の叙勲に際し、瑞宝中綬章の栄に浴し、身に余る光栄と感激いたしました。去る5月18日に厚生労働省において、竹内副大臣より勲記、勲章を授与されました。当日午後、皇居豊明殿に参内して天皇陛下に拝謁を賜りました。浅学非才の身にとつて夢のような一日でした。私は第一内科に入局して

(の質)を考えながら、「人生、楽しく美しく」と生きてきました。後期高齢者になってからはQOD(死の質)を考えながら「余生も楽しく美しく」と生きて、逝きたいと思つていました。終わりに、おのほな同窓会の皆様の高いQOL生活(健康と多幸の生活)をご祈念申し上げます。有難うございました。



藤森宗徳先生を始め、多くの医師会の先生方から貴重な教訓を数多く頂きました。これは私にとってその後の宝となりました。平成2年に副院長、平成9年に院長として勤め、平成15年3月に退官致しました。お蔭さまでこの間、大過なく役目を果たすことが出来ました。

今振り返ってみても、自分は本当に多くの方々から支えられてきたのだと改めて感謝の気持ちで一杯です。さらに千葉大学、あのはな同窓会の先生方にも大変お世話になりました。私がここまで成長出来たのも先生

方のご指導とご鞭撻があったおかげです。今受章に際し感じたことは、この受章は自分一人のものではない、国立病院機構千葉医療センターの職員一人一人の普段の努力と多くの先生方からのご支援、ご指導の積み重ねの結果であり、その結果この千葉医療センターが評価されたのだと考えておられます。今後この栄に恥じることの無いよう、これからも務めて参りたいと思いますので、千葉医療センターに対し、よろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

行っていました。PTC、PTCDを導入し、切除不能例に対しては外瘻・内瘻化を行っていましたが、昭和50年代になり内視鏡の急速な進歩によりPTC以外にEPCGを導入し、次第にPTC症例は減少し、現在ではEPCGによる検査治療が行われPTCが行われなくなつたのは、時代の流れ進歩とは云え昔日の感があります。

院長就任後は、地域の中核病院として「信頼され安心して受診できる病院」を目指して、第一に日進月歩の医学、医療機器の進歩の中で、医師はエビデンス科学的根拠に基づき医療を行う、第二に医療事故や院内感染等を防止するマニュアルを作成し、適時見直しを図る、第三に「インフォームド・コンセント」更には「インフォームド・チョイス」の徹底を図り診療情報を開示する。これらを中心掛けて来ました。これにより患者の立場に立った質の高い医療を提供することが出来ると考えております。

して全国レベルの会議に積極的に協力してきました。少子高齢化が進み当県西地域でも人口減少がみられる中で、二年位後に当病院が県西地域の中核病院として開設され、筑波大学、自治医科大学の協力を得て特

に救急医療の充実を図る計画がなされております。最後に、あのはな同窓会の皆様を始め、臓器制御外科学教室の先生方のご指導ご協力を心より感謝申し上げます。

支援を受け、日勤を終えて5時過ぎに研究室に通いました。そこで当初初めての長期のホルマリン固定剖検標本を用いた免疫染色法を行い、長年の私の疑問であった「川崎病冠動脈の驚異的な内膜肥厚」が「発症後年余を経ても内膜増殖因子が著しく出現していること」が原因であると明示しました。この論文は2001年心臓病学会の小児科部門最優秀賞に選ばれました。

2000年、通信病院に最新のMRI装置が入り、新進気鋭の放射線技師の武村君との出会いで、ついに乳幼児に夢の非侵襲的冠動脈画像診断の道が開かれました。症例を重ねるごとに画像は目覚ましく明瞭になり、多様な撮像法を駆使し、カテーテルでは描出不可能な冠動脈瘤内血栓や内膜肥厚まで描出し、国際学会で欧米先進国から讃嘆の声が

あがりました。私は現在も川崎病のMR冠動脈画像診断の普及に努めています。しかしコストパフォーマンスが悪いこと、撮像に高度な技術が要求されることで、普及は遅々として進まない現状であります。

川崎病一途の不器用な人生を生きてきました。それでも無駄ではなかったかもしれないと、私自身への慰めとして、さらに家族や亡き両親へ尽くしきれなかった謝罪として叙勲を受け止めております。

昨年より通信病院の事務の方々が私の経歴や業績を詳細に調べておられ、大変な御面倒をおかけしたと気付きました。そして小児科医として幼い命を預かりながら無事に叙勲年齢に達したことに仲間や恩師の方々に改めて深く感謝しております。



瑞宝小綬章  
瑞宝小綬章受章の榮に浴して

横山孝一 (昭35)

平成28年春の叙勲で、瑞宝小綬章受章の榮に浴し、皇居「豊明殿」において天皇陛下に拝謁を賜りました。私は昭和35年3月に卒業し大学病院でのインターンを経て、昭和36年4月に第一外科教室(現臓器制御外

科学教室)に入局しました。大学病院並びに関連病院において外科医としての研修を重ね、昭和47年4月に関連病院であります茨城県の県西総合病院に外科医長として赴任、院長三宅和夫先生(故人)の指導の下、胸部外科さらに腹部外科手術を積極的にを行い、当地域の医療の強化充実に努力しました。特に肝胆膵疾患症例に対する精査手術として当時第一外科教室で主体的

に行っていました。PTC、PTCDを導入し、切除不能例に対しては外瘻・内瘻化を行っていましたが、昭和50年代になり内視鏡の急速な進歩によりPTC以外にEPCGを導入し、次第にPTC症例は減少し、現在ではEPCGによる検査治療が行われPTCが行われなくなつたのは、時代の流れ進歩とは云え昔日の感があります。

院長就任後は、地域の中核病院として「信頼され安心して受診できる病院」を目指して、第一に日進月歩の医学、医療機器の進歩の中で、医師はエビデンス科学的根拠に基づき医療を行う、第二に医療事故や院内感染等を防止するマニュアルを作成し、適時見直しを図る、第三に「インフォームド・コンセント」更には「インフォームド・チョイス」の徹底を図り診療情報を開示する。これらを中心掛けて来ました。これにより患者の立場に立った質の高い医療を提供することが出来ると考えております。

対外的には、全国国民健康保険診療施設協議会茨城県支部長、関東甲信静地区国保診療施設協議会会長、全国自治体病院協議会代議員(茨城県支部副会長)と

2016年春の叙勲で、瑞宝小綬章を拝受いたしました。ささやかな私の経歴ですが、1972年千葉大学を卒業し同小児科に入局しました。入局1年後に他院に1年間出ることになったものの、当時女医はどこからも拒否され、やっと女子医大が受け入れてくれて、心臓病や川崎病の勉強の機会が与えられました。そこは草川教授の方針で「女医が母としても働きやすい環境」にあり、私は千葉大に帰らず2人の子供をもうけ、学位も頂き、1979年大

阪の国立循環器病センターに就職しました。小児科部長の神谷先生に感染、共鳴し、それから約15年間で川崎病児の心臓カテーテル検査は約4000件となりました。この間に川崎病冠動脈障害の特徴、予後、進行する冠動脈狭窄病変などの研究を発表しました。一方で小児のカテーテル検査は危険性が高く、何とか非侵襲的な方法はないかと望み続けていました。

1994年、家族の東京転居に伴い東京通信病院に転居しました。これまでの研究が途絶し意気消沈していた私に、女子医大心研の教授が研究室と優秀な共同研究者を紹介してくれました。郵政省からも研究費の

支援を受け、日勤を終えて5時過ぎに研究室に通いました。そこで当初初めての長期のホルマリン固定剖検標本を用いた免疫染色法を行い、長年の私の疑問であった「川崎病冠動脈の驚異的な内膜肥厚」が「発症後年余を経ても内膜増殖因子が著しく出現していること」が原因であると明示しました。この論文は2001年心臓病学会の小児科部門最優秀賞に選ばれました。

2000年、通信病院に最新のMRI装置が入り、新進気鋭の放射線技師の武村君との出会いで、ついに乳幼児に夢の非侵襲的冠動脈画像診断の道が開かれました。症例を重ねるごとに画像は目覚ましく明瞭になり、多様な撮像法を駆使し、カテーテルでは描出不可能な冠動脈瘤内血栓や内膜肥厚まで描出し、国際学会で欧米先進国から讃嘆の声が

あがりました。私は現在も川崎病のMR冠動脈画像診断の普及に努めています。しかしコストパフォーマンスが悪いこと、撮像に高度な技術が要求されることで、普及は遅々として進まない現状であります。

川崎病一途の不器用な人生を生きてきました。それでも無駄ではなかったかもしれないと、私自身への慰めとして、さらに家族や亡き両親へ尽くしきれなかった謝罪として叙勲を受け止めております。

昨年より通信病院の事務の方々が私の経歴や業績を詳細に調べておられ、大変な御面倒をおかけしたと気付きました。そして小児科医として幼い命を預かりながら無事に叙勲年齢に達したことに仲間や恩師の方々に改めて深く感謝しております。

お知らせ

叙勲、褒章その他祝事に関係された方は是非同窓会事務室までご一報下さい。編集部でも絶えず注意しておりますが、ニュースに接し得ない事態もあります。お喜びはなるべく早く、同窓の皆様にもお分けしたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。



最終講義

肝疾患診療のこれまで・これから

横須賀 收 (昭50)



はじめに

消化器・腎臓内科は旧第一内科から、腫瘍内科へ、さらに消化器・腎臓内科へと名称の変遷を経てきた教室です。私達が教室に入ったころには三輪清三教授が退官され、奥田邦雄教授が主宰されておりましたが、その後大藤正雄教授、税所宏光教授に引き継がれ、2006年11月より私が教授に就任させていただいております。教室の先輩には消化器では順天堂大学の白壁彦夫教授、埼玉医大の伊藤進教授、久留米大学の谷川久一教授、東京大学の小俣政男教授、腎臓では筑波大学の東條静夫教授、成田光陽教授、千葉大学の若新政史教授、血液では米満博教授など名前を挙げきれないほど沢山の錚々たる先生方が輩出されておられ、その

先生方と同門であることを誇りに思っております。また、研究室やクラブの多くの先輩や仲間を支えられて研究が進んできたと感謝しています。そして、アジア太平洋肝臓会議では多くの友人と巡り合い、幸運だったと思っております。 私達の教室では、最近では肝胆膵・消化管・腎臓を中心に仕事をしてまいりましたが、私は肝疾患を中心に臨床・教育・研究をおこなってきましたので、ここでは肝臓病疾患のこれまでとこれからについて、概説してみたいと思います。 肝疾患は主としてB型肝炎

第一内科(消化器・腎臓内科)歴代教授



大藤正雄教授



三輪清三教授



税所宏光教授



奥田邦雄教授

1. B型肝炎

B型肝炎ウイルス(HBV)は1965年に、Blumberg博士が抗原抗体反応を用いて、ウイルス表面抗原をAustralia抗原として発見したことに研究が始まっています。HBV遺伝子は、一部に一本鎖DNAをもつ約3200塩基対からなる不完全二重鎖DNAであり、肝細胞内に取り込まれた後、閉環状完全二重鎖DNA(cccDNA)となり、これを鋳型としてRNAが合成されます。このうちのプレゲノムRNAは逆転写されることによりDNAを合成し、HBVを複製するといふ増殖経路が解明されてきました。

B型肝炎ウイルス(HBV)は1965年に、Blumberg博士が抗原抗体反応を用いて、ウイルス表面抗原をAustralia抗原として発見したことに研究が始まっています。HBV遺伝子は、一部に一本鎖DNAをもつ約3200塩基対からなる不完全二重鎖DNAであり、肝細胞内に取り込まれた後、閉環状完全二重鎖DNA(cccDNA)となり、これを鋳型としてRNAが合成されます。このうちのプレゲノムRNAは逆転写されることによりDNAを合成し、HBVを複製するといふ増殖経路が解明されてきました。

HBVは、世界人口の約3分の1に当たる20億人に感染の既往があり、HBs抗原陽性の持続感染者は3億5千万人に上るといわれており、我が国のHBs抗原陽性者は現在約90~100万人程度と推定されます。 B型肝炎の治療の目標は、ウイルス増殖を抑制することにより、B型肝炎を寛解状態に導き、肝硬変・肝不全への進展や肝臓の発生を抑制し、良好なQOLのもとでの生存期間を延長させることです。本邦では1986年よりインターフェロン(IFN)療法が導入

されました。IFNには抗ウイルス作用のほか免疫賦活作用もあり、HBs抗原陽性慢性肝炎に対して使用されましたが、投与期間が短いことから期待されたほどの効果は得られませんでした。2000年からは24週間投与が保険適応となり治療成績も向上しています。セロコンバージョン率は2~3割です。近年、週一回の注射で良いPEG-IFNα製剤の保険が認可され、投与がしやすくなっています。

B型肝炎の増殖経路には逆転写のステップがあることから逆転写酵素の阻害剤である核酸アナログ製剤としてラミブジン(LAM)、阿德福ビル(ADV)、エントカビル(ETV)、テノフォビル(TDF)の有効性が示されてきました。2000年からはLAMが使用可能となり、B型肝炎治療は大きく変化しました。核酸アナログ製剤は投与が容易であり、比較的副作用も少なく、IFNに比べて普遍的に使用できますが、LAMは耐性株出現頻度が5年で60~70%と高く、一度LAM耐性株になると、他の薬剤に対しても耐性を獲得しやすくなるのが問題でした。2004年から

はLAM耐性株に対してADVが併用可能となり、ADVはLAM耐性株に対しても治療効果があり、LAMとADVの併用療法が推奨されています。2006年からは、我々も開発に寄与した新たな核酸アナログ製剤としてETVが認可されました。ETVはLAMに比べ優れた抗ウイルス効果を示し、耐性変異の出現も5年で約2~3%未満と低率であることから、現時点では広く用いられています。また、近年ETVと並んで第一選択薬に位置付けられているのがTDFです。TDFはADVに似た構造を有していますが、腎毒性が少ないため、高い抗HBV効果が期待できます。核酸アナログ製剤は簡便に投与でき副作用の少ない治療法ですが、長期間にわたり投与を持続しなければいけないという問題があります。投与をやめるために、核酸アナログ投与後にIFN治療を加えるなどの工夫がなされていますが、cccDNAを減少させるような新しい製剤の開発が望まれます。

はLAM耐性株に対してADVが併用可能となり、ADVはLAM耐性株に対しても治療効果があり、LAMとADVの併用療法が推奨されています。2006年からは、我々も開発に寄与した新たな核酸アナログ製剤としてETVが認可されました。ETVはLAMに比べ優れた抗ウイルス効果を示し、耐性変異の出現も5年で約2~3%未満と低率であることから、現時点では広く用いられています。また、近年ETVと並んで第一選択薬に位置付けられているのがTDFです。TDFはADVに似た構造を有していますが、腎毒性が少ないため、高い抗HBV効果が期待できます。核酸アナログ製剤は簡便に投与でき副作用の少ない治療法ですが、長期間にわたり投与を持続しなければいけないという問題があります。投与をやめるために、核酸アナログ投与後にIFN治療を加えるなどの工夫がなされていますが、cccDNAを減少させるような新しい製剤の開発が望まれます。

2. C型肝炎 C型肝炎は非A非B型肝炎として認識されてきた肝炎です。このHCVは1988年に、患者血液から核酸を抽出し、発現ベクターに組み込んで、発現した蛋白と患者血液とで抗原抗体反応をさせ遺伝子断片を見つけたという、遺伝子学的な手法で発見された初めてのウイルスです。HCVは約60nm・約10kbのRNAウイルスです。 全世界には1.7億人の、日本には約100~200万人のC型肝炎患者がいると推定されています。日本ではGenotype 1bが約7割を占め、2は少数であり、Genotype 2aが25%、2bは5%を占めると推定されます。

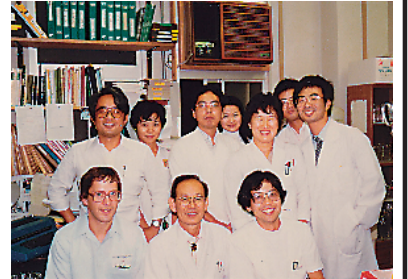
我々は急性肝炎ではIFNの有用性は高いこと、2型あるいは低ウイルス量の場合IFNは有効であることを示してきました。しかしながら、Genotype 1かつ高ウイルス量の症例ではIFN単独では約6%と有効率が低く、その後、抗ウイルス剤のリバビリンを併用し、48週の長期治療を行うことで、約50%に著効が得られることが示されました。この間、培養細胞にHCVを感染させることが可能となり、HCVの増殖経路が明らかになり、HCVの増殖に必要なプロテア

はLAM耐性株に対してADVが併用可能となり、ADVはLAM耐性株に対しても治療効果があり、LAMとADVの併用療法が推奨されています。2006年からは、我々も開発に寄与した新たな核酸アナログ製剤としてETVが認可されました。ETVはLAMに比べ優れた抗ウイルス効果を示し、耐性変異の出現も5年で約2~3%未満と低率であることから、現時点では広く用いられています。また、近年ETVと並んで第一選択薬に位置付けられているのがTDFです。TDFはADVに似た構造を有していますが、腎毒性が少ないため、高い抗HBV効果が期待できます。核酸アナログ製剤は簡便に投与でき副作用の少ない治療法ですが、長期間にわたり投与を持続しなければいけないという問題があります。投与をやめるために、核酸アナログ投与後にIFN治療を加えるなどの工夫がなされていますが、cccDNAを減少させるような新しい製剤の開発が望まれます。





Dr.SummersのLaboにて



第一内科第二研究室の先生方と

1ゼ、ポリメラ1ゼ、NS5A蛋白の阻害剤が開発されてきました。これらのプロテアーゼ阻害剤をIFNやリバビリンと併用することで、より短期間で、70〜80%の著効率が得られることが明らかになりました。その後、このようなウイルス蛋白阻害剤を組み合わせることで、IFNを使わなくともNS5A阻害剤とプロテアーゼ阻害剤を使うことで、約80%の症例で著効が得られることが示されましたが、問題は治療に抵抗性のウイルス変異株が存在する場合、その治療効果が低下することでした。

その後、NS5Bポリメラーゼ阻害剤ソフォスブビル(SOF)が開発され、我々もGenotype 1型の患者に、この薬をレディバビルと併用することで、IFNを使うことなく12週間の治療で、ほぼ全例でHC

Vを駆除できることを明らかにしました。また、Genotype 2型を対象としたソフォスブビルとリバビリン(SOF+RBV)併用療法の有効性も全体で95%であることを小俣先生主導の治療で明らかにしました。このように、Genotype 1型や2型に対するIFNフリーの治療は高い効果を示していますが、腎不全患者や進行した非代償性肝硬変患者への治療が今後の課題であると思います。

能低下のために、遺伝子に異常が蓄積して癌化した細胞が排除しがたくなり、肝臓がんが持続可能性が考えられます。

肝臓の予後に関しては恩師である奥田邦雄教授が肝機能と肝がんの進展度の双方によることを奥田の分類で示して以来、世界的にも同様の趣旨の分類が行われているわけですが、この分類に基づいた治療法の検討が課題となっています。比較的小さな肝臓は肝切除やラジオ波焼灼治療(RFA)により治療成績は改善し、中等度の肝臓は経血管化学塞栓療法(TACE)による治療が主流になってい

が、治療法の選択に難渋することが多く、今後の問題です。教室では多くの症例にRFAやTACEを行い肝がんの治療に努めてきましたが、肝がんの母地であるB型、C型肝炎が残さ

が増加しており、これはメタボリック症候群や糖尿病、アルコール性肝障害の増加と相まって今後も増加の傾向が続くためと考えられます。また、一つには患者の年齢が上昇すること

### 3. 肝がん

C型肝炎の大多数の症例でHCVウイルスが排除可能になり、また、B型肝炎において、ウイルスのコントロールが可能となり、

肝臓の鎮静化は可能となりましたが、肝がんの発生は低下するものの、今後も続いていくことが想定されます。一つには非B非C肝臓

が増加しており、これはメタボリック症候群や糖尿病、アルコール性肝障害の増加と相まって今後も増加の傾向が続くためと考えられます。また、一つには患者の年齢が上昇すること

で、免疫細胞の機能低下のために、遺伝子に異常が蓄積して癌化した細胞が排除しがたくなり、肝臓がんが持続可能性が考えられます。

肝臓の予後に関しては恩師である奥田邦雄教授が肝機能と肝がんの進展度の双方によることを奥田の分類で示して以来、世界的にも同様の趣旨の分類が行われているわけですが、この分類に基づいた治療法の検討が課題となっています。比較的小さな肝臓は肝切除やラジオ波焼灼治療(RFA)により治療成績は改善し、中等度の肝臓は経血管化学塞栓療法(TACE)による治療が主流になってい

が、治療法の選択に難渋することが多く、今後の問題です。教室では多くの症例にRFAやTACEを行い肝がんの治療に努めてきましたが、肝がんの母地であるB型、C型肝炎が残さ

られてきたために、肝がんの長期コントロールが難しい面があったと考えられます。今後は、C型肝炎、B型肝炎の治療により、肝機能の進展は抑制されるでしょうが、問題は進行した肝がんの治療を如何にすべきかであると考えられます。

VEGF, RFAの阻害薬であるソラフェニブが2008年に認可されて以来、肝がんに対する新しい抗がん剤の開発はことごとく失敗に終わっていました。最近、我々もSOF治療に携わった新しい抗がん剤がソラフェニブ無効例に有効であるというデータが示されました(投稿中)。また、レチノイドや免疫チェックポイント薬である抗PD-1抗体や抗CTLA4薬の有効性が示されてきており、今後治療が行われ、肝がんの治療効果は上がる可能性ががあります。

肝臓は多種多様な遺伝子異常が関与し多段階の発癌プロセスを経て形成される癌です。長期に持続する慢性肝炎と肝硬変への進展が肝臓癌において中心的な役割を果たします。肝の炎症と再生の繰り返しは酸化ストレスを誘導し、細胞周期を促進させ、DNA損傷が生じやすくと考えられます。

近年、肝がん組織などを用いて、DNAマイクロアレイやSAGE法などによる遺伝子発現プロファイリングや全ゲノムシークエンス、エクソン解析などによる網羅的な遺伝子解析が行われ、肝臓の原因(ウイルス性・非ウイルス性など)の違いによる比較や共通性、癌部と非癌部の比較、経時的な比較などが検討できるようになりました。

肝臓の遺伝子異常の検討は近年、急速に知見が蓄積し、今後の遺伝子異常に応じた治療が開発されてくるものと考えられます。このような遺伝子解析は、ソラフェニブなどの分子標的薬の臨床応用において、治療標的となる因子の解明や

肝臓の予測に重要と考えられます。教室においてもエビデネティックな変化や癌幹細胞の検討を行い、各種薬剤の治療応用が可能かなど検討していますが、まだ克服すべき道は長いと言わざるを得ません。



福山右門教授夫婦、嶋田裕先生を囲む会で、陸上部の先輩たち



消化器・腎臓内科



# BELCA賞 ロングライフ部門を受賞

キャンパス整備企画室長 大学院工学研究科

教授 上野 武



再生された「鎮守の森に佇む社」の全景

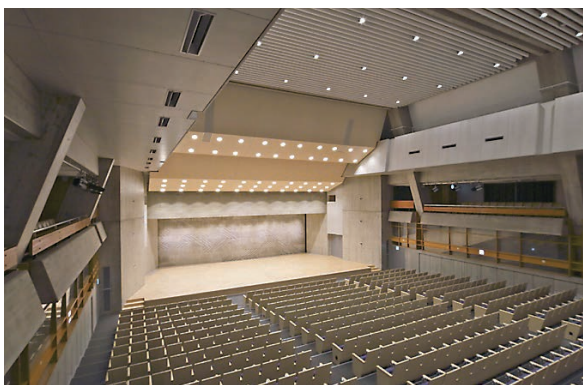
再生された「鎮守の森に佇む社」の全景  
ビルが、このたび栄えある第25

るの は な 同 窓 会 を 母 体 と し た 「 医 学 部 創 立 85 周 年 記 念 会 」 に よ っ て 1963 年 ( 昭 和 38 年 ) に 建 設 さ れ た 医 学 部 記 念 講 堂 は 、 築 後 50 年 が 経 過 し た こ と を 契 機 に 、 2014 年 ( 平 成 26 年 ) に 大 規 模 な 改 修 工 事 が 行 わ れ 、 創 建 当 初 の 美 し い 佇 ま い を 取 り 戻 し ま し た 。

改修後大学の歴史的資産として新名称「るの は な 記 念 講 堂 」 と な っ た こ の 建 物 が 、 こ の た び 栄 え 有 る 第 25

命に寄与することを目的としたものは、賞はロングライフ部門とベストリフォーム部門の2部門からなり、「るの は な 記 念 講 堂 」 が 受 賞 し た ロ ン グ ラ イ フ 部 門

は、長期使用を考慮した設計のもとで建設され、長年にわたり適切に維持保全がなされ、さらに今後相当の期間にわたって維持保全をなしていくことが計画されている模範的な建築物として表彰されたものです。



現設計空間のさわやかな緊張感を損なうことなく機能強化を目指したホール内観

の医学部時代の思い出を重ねる同窓生の方々も多いとお聞きしています。経年変化による一部材料の劣化や、利用環境の変化に対応するため、改修工事はこれまで、竣工後30年にあたる1993年に第1回、50年後の2014年に第2回が行われました。特に第2回改修では、創建時のイメージを損なわない形での耐震補強、現代のニーズに合わせたゆとりある客席の整備、音響性能の充実、空調設備の改良などが実施されました。

第2回改修に先立つ2012年に策定された千葉大学キャンパスマスタープランでは、基本整備方針の一つである「美しく持続可能な

なキャンパスの実現」のため、キャンパスの歴史遺産の継承が謳われており、本講堂の改修は、これを実現していくためのパイロットプロジェクトとして位置づけられています。

も使われたほか、古川宇宙飛行士をお招きした「宇宙ステーションと宇宙医学」という講演会には、700人以上の参加者があり、立ち見も出るほどの盛況でした。

今後とも、るの は な 同 窓 会 の 皆 さ ま の ご 支 援 、 よ ろ し く お 願 い いた し ま す 。

### 建物概要

竣工年	1963年 (昭和38年)
改修年	[第1回] 1993年 (平成5年) [第2回] 2014年 (平成26年)
用途	大学 (講堂)
建物所有者	国立大学法人千葉大学
設計者	横文彦+柳竹中工務店 (新築) 国立大学法人千葉大学 (第1回改修) 榎榎総合計画事務所 (第2回改修)
施工者	柳竹中工務店
維持管理者	国立大学法人千葉大学



文化勲章受章者の故帖佐美行氏によるBELCA賞・賞牌



Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。より健やかで輝かしい明日を。

武田薬品工業株式会社

www.takeda.co.jp



# 各地の は な 会 だより

## 近畿の は な 会

曇り空の5月29日(日)の昼下がりに、昨年に引き続いて「近畿の は な 会」を梅田のグランド白楽天で開催しました。

「近畿の は な 会」は、大阪・兵庫・京都・奈良・和歌山・滋賀に在住する千葉大学医学部卒業生及び医学部に在籍した者からなり、約70名の会員がいます。同窓会の呼びかけには毎回15名前後の参加者があります。一時は若い会員の先生がたが少ない時期もありましたが、最近では後期研修時代の先生がたも姿を見せてくれており活気が出てきました。今年も昨年と同様16名の参加者がありました。上田真喜子会長のご挨拶の後、物故会員となられた林懐良先生(昭39)のご冥福を祈り黙とうを捧げました。林先生は昨年の同窓会直前に参加を申し込まれ、諸先生と食事と思い出話を楽しまれていましたが、今年の3月に逝去されました。ご家族からお礼の知らせがあり、同窓会出席が良い思い出となられたようでした。

今までは、関西圏の大学教授就任などの祝賀を兼ねて同窓会を開いており、4年に1回ほどの開催となっていました。昨年に続いて今年も参加者から「毎年同窓会を開催してほしい」との希望が多く出ましたので、特にイベントがなくても関西在住同窓生の交流を目的として年に一度集うことになりそうです。

宇佐美暢久先生の乾杯のご挨拶の後、自由に食事と歓談をして頂き、一息ついたところで、各自の近況報告に移りました。近畿の は な 会で出会った先輩のアドバイスを受けて人生が好転して行った話や、移植に携わるうちに「二人称の死」について深く考える機会があり講演の依頼を受けたこと、学生運動の渦中に巻き込まれ大学院や医局とは無縁の医師としての修行を続けてきた体験話などがありました。また、地域医療に黙々と精を出すうちに患者さんがみずからの病気を理解しやすいようにと分かりやすい言葉で3冊も本を著した先生もいました。PM2.5の環境汚染問題で講演の依頼が続いたこと、VR(バーチャル・リアリティ)のクロスモダリティ現象(脳の錯覚)をリハビリテーションに生かしてみたいといった最新の研究の話題や、心臓弁膜症や肺高血圧症の臨床研究に携わる循環器病センターの若手の先生がたの話など盛りだくさんの報告が続きました。70歳台は言うに及ばず80歳を迎えた諸先輩が、患者さんの健康を願って現役医師として生き生きと活動されている姿に、畏敬の念を抱くと共に良きお手本を身近に見て身の引き締まる思い

がしました。近況報告に続いて「近畿の は な 会の歩み」と題して、スライドにした1976年から2015年までの同窓会の集合写真を皆で見ても、お互いの若かりし姿に驚き合ったり懐かしさを覚えたりしたことでした。雨宮浩先生の中締め挨拶の後、皆で記念撮影をして来年の再開を約束し散会となりました。

写真右から



前列：雨宮浩(昭35)、石川正士(昭32)、宇佐美暢久(昭31)、上田真喜子(昭50)、市川武(昭44)、豊田雄敬(昭41)  
後列：中尾照逸(昭50)、岡田厚(平21)、小永井奈緒(平23)、清島啓治郎(昭35)、玉置哲也(昭38)、矢野浩二朗(平11)、島正之(昭59)、福井博行(昭56)、増村道雄(昭50)  
(中尾照逸)

## 東京の は な 会 新年会

平成28年度の東京の は な 会、新年会は1月16日(土)に銀座アスター御茶ノ水賓館にて開催されました。最終的な出席者は54名とこれまでになく盛況でありました。

今回の特別講演は東京医科大学免疫学講座主任教授として就任された横須賀忠先生(平5)に「目で見える免疫学―分子イメージが拓くTリンパ球の時空間的制御メカニズム―」のタイトルにて話をいただき、免疫の実態が可視化されることを見せてもらいました。続いて新企画の若手6名によるShort Speech①渡三佳先生(平13)厚労省統計情報部②武藤剛先生(平19)順

天大衛生学③磯部優理先生(平19)東大医科研④吉原晋太郎先生(平21)東大耳鼻科・医科研⑤黒川友哉先生(平23)駒込病院⑥齋藤合先生(平26)聖路加病院、らにそれぞれの立場での5、10分のFree PMをいただいた。母校を卒業し、東京の各地にて臨床、研究、行政などに活躍している状況が理解でき、頼もしい限りでした。また発表、応答もなかなかのものでした。

その後の懇親会は、ピュッフェ形式とし、参加者の隔ての無い交流の場を作るように取り計らいましたが、お疲れの方のために念のため周辺に椅子を配置しました。昭和24年卒の長澤仁一先生(顧問)をはじめとし、懐かしい方々もお見えになり、久しぶりの会合を楽しみ、まさに同窓会そのものです。

来賓として済陽高穂全国の は な 会会長、秋葉哲生千葉県支部長らのご挨拶もいただきました。そして喜ぶべきことは、Short Speechでの若手の発表には同級生たちも集まり、新年会は一気に若返りムンムンした雰囲気が出されました。仕事、出身、地域などの共通の話題に話が盛り上がり、ベテランから若手まで年齢

を超えたつながりとなり、ほとんどの方は最後まであちこち動き回り話に花が咲きました。活性化の一助になればとの試みでありました。集合写真にて多くの若い同窓生もおられることにご理解いただけるものと思います。

なお、新年会の報告が遅れましたこと関係各位にお詫び申し上げます。また出席者が多く、学年順の氏名(敬称略)のみの記載としました。  
(出席者)長澤仁一(昭24)、小沢昭司(昭27)、小野清四郎(昭31)、岩倉弘毅(昭37)、伊藤達雄(昭42)、古山信明(昭43)、浅野武秀(昭44)、石場俊太郎(昭45)、橋本英明(昭45)、林泰(昭45)、済陽高穂(昭45)、櫻井幸弘(昭46)、矢端幸夫(昭46)、小川富雄(昭48)、坪井秀一(昭49)、秋葉哲生(昭50)、篠塚規(昭50)、稲田晴生(昭52)、山口哲生(昭53)、吉原俊雄(昭53)、栗原正利(昭54)、藤田明(昭55)、伊丹純(昭56)、道永麻里(昭56)、道永幸治(昭56)、角田隆文(昭57)、小宮山伸之(昭58)、赤倉功一郎(昭59)、齊藤光江(昭59)、島田英昭(昭59)、西島由実(昭59)、窪田徳幸(昭60)、加藤直也(昭61)、



村上康二(昭61)、溝尾朗(昭63)、石井康宏(平元)、安西尚彦(平2)、岡本和久(平2)、三浦文彦(平3)、井上賢治(平5)、横須賀忠(平5)、黄舜範(平6)、留守卓也(平7)、石原順就(平8)、塚塚周平(平9)、小松幹一郎(平10)、平野真希子(平10)、清水秀文(平

11)、新保正貴(平11)、大門道子(平13)、渡三佳(平13)、武藤剛(平19)、磯部優理(平19)、後藤昌也(平21)、吉原晋太郎(平21)、真崎藍(平22)、黒川友哉(平23)、田中雄一郎(平23)、齋藤合(平26)

(伊藤達雄)



東京のものはな会 平成28年新年会

君津木更津  
のものはな同窓会

平成28年度君津木更津のものはな同窓会総会は去る5月24日(火)に木更津市の東京ベイプラザホテルで開催された。君津、木更津、富津、袖ヶ浦市内で開業されている先生方をはじめ、君津中央病院の医師、OB、初期研修医、千葉大の学生さん(病院実習中)など36名が参加した。まず会長の松清先生からご挨拶があり、昨年ご逝去された遠山寅雄先生(医専27)に黙禱がさげられた。事業報告、会計報告、会員の動向(新入会3名、退会6名、物故1名、平成28年5月現在会員数97名、新会長青柳博先生(昭49)他執行部人事の承認がなされた。今回は千葉大学心臓血管外科の松宮護郎教授をお招きし、君津中央病院副院長須藤義夫先生の司会のもと「心臓血管疾患外科治療の最前線」というタイトルでご講演頂いた。自己紹介の後、ASの外科治療、高齢者ASに対する経カテーテル治療(TAVI)、多職種ハートチームによる適応の決定、千葉大ハートセンター構想、MV形成術、Afの外科治療(Maze手術)、大動脈瘤のス

テント治療、ハイブリッド手術、心不全の治療として補助人工心臓から心移植に至るまで多岐にわたる最新外科治療の話をわかりやすくご講演していただいた。写真撮影の後懇親会に移り、君津中央病院名誉院長唐木清一先生(昭28)の乾杯の後、近況報告や昔談義に花を咲かせた。懇親会中締め、会場を移し二次会となり、松宮教授にも深夜まで

お付き合ひ頂いた。写真右から  
前列：田中寿一(昭43)、福山悦男(昭36)、三枝一雄(昭32)、青柳博(昭49)、松宮護郎(大阪大・昭61)、松清(昭43)、唐木清一(昭28)、田中弘一(昭42)

二列目：渡部良夫(昭63)、孫莉玲(平3)、岡陽一(昭56)、須田純夫(昭52)、土屋俊一(金沢大・昭51)、海保隆(昭57)、須藤義夫(昭55)

三列目：河木潤(島根医大・平3)、竹内修(東海大・昭61)、加藤大介(昭62)、三枝奈芳紀(信州大・昭57)、永寫薫(昭56)、畦元亮作(昭58)、山本健介(昭44)、李元浩(昭53)

四列目：戸ヶ崎賢太郎(平27)、池内博紀(平24)、阿部真一郎(平19)、山口敏広(北里大・昭54)、鮎澤溶一(北里大・平元)、古谷雄三(昭61)、清水弘則(平4)

最後列：諏訪部信一(平3)、柴田裕輔(平27)、山田博之(平9)、柳澤真司(昭60)、竹内幹人(学生)、松山浩之(学生) (海保隆)



東京のものはな会  
総会

平成28年6月18日(土)午後4時より銀座アスタール御茶ノ水賓館にて平成28年度東京のものはな会総会が開催されました。済陽高穂全国のものはな会会長、吉川広和埼玉県のものはな会会長、崎尾秀彰栃木県のものはな会会長、秋葉哲生千葉県のはな会会長も含め出席者は約30名で、挨拶に続いて物故者の報告と黙とうの後、これまで1年間の理事会報告などを行いました。

まず人事については理事(23名)、監事(2名)、顧問(2名)の役員氏名の発表と出席した役員(13名)の自己紹介を、次いで「のものはな同窓会賞受賞者」として前日本医師会会長の唐澤祥人先生(昭43)、そして「のものはな同窓会名譽会員」として唐澤祥人先生、奥村康先生(昭44)が決定したことを報告し、新理事についての総会承認を得た。

会計報告にて決算・監査結果・次年度予算を説明し、これらについて承認された。このところ会費納入率の低下が20%台となり、会費納入率の向上が喫緊の問題である。

事業報告としては最も大切な活性化への道程として①理事の若返り②理事会の定例化③理事会会務の明文化④新年会・総会などに新風を吹き込む⑤IT、Nextの活用、⑥会報Inohana Tokyoの発行などを説明し、新年会では若手のShort Speechを行った結果、約50名を超える参加があったことを報告。そして次年度の事業として、定例理事会、新年会、総会、会報発行、さらに名簿については印刷ペースは3年ごとに更新される本部の名簿に委ね、東京のものはな会としてはIT



ベースとし、勤務医部を中心にて作成することを説明し、承認を得た。

会則変更については①活性化のため、副会長を3名とする理事会案②総務部、会計部、広報・情報企画部(病診連携を含む)、勤務医部について会務の理事会案を示し、いずれも総会にて了承された。会務については今後1年間運用し、検討したうえで細則などとして会則に追加する予定である。

東京も含め各支部の会員が増えない、そして低い会費納入率などの問題があり、卒業式などを利用して同窓会の存在をアピールし、支部を含め全体の活性化を図ることが必要であるとの意見があり、済陽会長も同意された。

総会後には、さらに参加者も増え40名となり、帝京大学形成外科教授、小室裕造先生(昭61)による「形成外科Up to Date」の特別講演に移った。外傷、腫瘍などのほか、加齢に伴う顔面の機能障害に対する形成外科的治療にも触れ、興味深く拝聴した。その後、寺谷俊康先生(平16)厚労省、福澤裕一先生(平18)井上眼科、笠木祐理先生(平20)東京医歯大、川合祐美先生(平24)JCHO新宿MCの

4名の若手によるShort Speechをお願いした。それぞれの立場での活躍を熱く語った。

その後の懇親会では中華料理に舌鼓を打ちつつ、年齢、仕事、立場、地域を越えてにぎやかに、そして時を忘れて話が弾みました。なお出席者が多かったため、参加者の氏名(敬称略)のみ学年順に記載します

- 出席者** 田中光(昭24)、藤山嘉信(昭30)、上原すゝ子(昭31)、加藤直幸(昭33)、村田光範(昭35)、岩倉弘毅(昭37)、木下敏子(昭38)、吉川広和(昭40)、板谷喬起(昭42)、伊藤達雄(昭42)、笠貫宏(昭42)、浅野武秀(昭44)、河村弘庸(昭44)、崎尾秀彰(昭44)、石場俊太郎(昭45)、済陽高穂(昭45)、矢端幸夫(昭46)、高島常夫(昭48)、坪井秀一(昭49)、秋葉哲生(昭50)、篠塚規(昭50)、稲田晴生(昭52)、加藤義治(昭53)、吉原俊雄(昭53)、道永麻里(昭56)、道永幸治(昭56)、角田隆文(昭57)、小宮山伸之(昭58)、赤倉功一郎(昭59)、島田英昭(昭59)、小室裕造(昭61)、村上康二(昭61)、石井康宏(平元)、長谷川浩(平元)、岡本和久(平2)、三浦文彦(平3)、緒方直史(平4)、

- 井上賢治(平5)、横須賀忠(平5)、清水秀文(平11)、寺谷俊康(平16)、笠木祐理(平20)、吉原晋太郎(平21)、川合祐美(平24)、(伊藤達雄)



のなはな一杯会

平成28年7月17日、京成ホテルミラマールにて、平成28年度のなはな一杯会が開催された。会員は、千葉中学校、千葉第一高等学校、千葉高等学校を卒業し、千葉医学専門学校、千葉医科大学、千葉大学医学部、医学部附属病院に在籍した、あるいは在籍中の医師および学生であり、卒業生30名、学生7名が参集した。

田邊政裕会長より開会の挨拶があり、その後総会が開催された。会則の一部変更、会計報告や今後の運営など討議された。その後の懇親会では、新入生の挨拶、各先生方の近況に加え、インターン制ポイント、医師の心得、学生時代の思い出、千葉大学医学部の最近の話題、医療法改訂への対応など多様なスピーチで大変盛況であった。参加者一同集合写真を撮り、閉会とした。その後2次会にも多数の方が参加され、再度盛り上がった模様である。

写真右から

- 前列：田那村宏(慈恵医大・昭42)、北原宏(昭43)、鈴木一郎(昭42)、市川邦男(専25)、田邊政裕(昭49)、宍倉正胤(昭37)、鎗田努

- (昭41)、広瀬彰(昭48)、西川哲男(昭47)、二列目：佐藤政教(昭44)、奥田桂子(順天堂大・昭57)、中野義澄(昭45)、中村宏(昭43)、大川玲子(昭47)、神崎頼仁(昭46)、稲田晴生(昭52)、山口哲生(昭53)、山本和夫(昭51)、西山真理子(昭49) 三列目：星岡佑美(平24)、花岡英紀(平5)、小川真

- (昭57)、今関文夫(昭54)、杉田克生(昭54)、永井敏雄(昭60)、石渡規生(平17)、大谷龍平(平22)、伊藤彰一(平10) 最後列：酒井望(平13)、諏訪園靖(平6)、森本大、新宅敬彦、吉澤和紘、福島剛、大谷祐介、岡本健人、南館智樹 (杉田克生)





# ク ラ ス 会

## ゐのはな27会(昭27)

「マタ27会方来ルト聞イタダケデ、嬉シサガコミアゲテクル。ミンノ顔ヲ見ラレルダケデ、トンデモナク楽シイ。」

これはゐのはな27会の通知を28名に出した中の服部了司君(90歳)の出席の返信。

昭和27年に医学部を卒業した総勢は65名。現在は30名。27会はこれまで毎年春秋の2回実施されてきた。開催地は東京ばかりでなく地方在住の学友が幹事を引き受けてくれ、宿泊旅行となったことも多い。

南からクラス旅行の地域をあげると、台湾、湯布院・別府、秋吉台・萩、山口・防府、嵐山・京都、木曾御嶽山、富士五湖・富士山、横須賀・鎌倉、油壺・城ヶ島、横浜ベイエリア、軽井沢、千葉養老溪谷、庄内・最上川、知床半島・北海道東など。各地区の学友が幹事を務めてくれた。

27会の世代は2・26事件や支那事変・太平洋戦争・大空襲被爆・学徒動員(主に工場での生産)戦後の復

興など話題は尽きない。各人の辛酸甘苦の体験から、人間社会に生きるため、友(恩師先輩後輩を含め)との強い結びつきと理解協力が、自分達の人生を支えてきた基柱と強く理解している。

27会の平均年齢は90歳。人生70年には70年の、80年には80年の、それぞれの歴史と体験から培われた知力があるはずで、私達90歳代にも、その世代の展望や夢、現時点での生き方の模索、将来への予測など、語り披瀝し合うのに事欠かないのである。

同窓会員の諸君、栄光ある伝統と輝ける歴史を更に高揚すべく結集しようではないか。

「クラス会が1年デモ長ク続イテホシイ」冒頭の便りの結語である。

\*鍋谷欣市・渡辺武の両君出席予定だったが、直前には転倒受傷。手術入院で急遽欠席となった。

写真右から  
前列：黄田照光、小沢昭司、服部了司、橋爪壮  
後列：伊藤(幹事)、広田和俊、櫻井稔、武宮三三  
(広田和俊)



## 爾久会(昭29)

千葉医科大学最後の学生として、敗戦後混乱期の昭和25年(1950)に92人が入学し、漸く高度成長が始まろうとしていた昭和29年(1954)に卒業しました。2016年6月26日に東京都飯田橋のホテル・メトロポリタン・エドモントでクラス会を行い、出席者9人(家族を含めて13人)。これまでの物故者57人、連絡のあった欠席者20人、連絡不能9人です。卒後62年ともなれば、まさに「年を経し糸の乱れの苦しさに、衣のたてはほころびにけり」。それぞれの歴史を思わせる集いでしたが、往時を偲ぶひと時を楽しみました。



写真右から  
前列：富岡正光、島崎淳、窪田叔子、中野練一、鈴木日出和、佐野迪雄  
後列：中島夫人、中山夫人、若菜夫人、中野夫人、佐藤忠夫、中島哲二、中山宗春  
(中山宗春)

## 五五会(昭30)

昨年、卒後60年を迎えた五五会は、幕を閉じるかどうかを検討されたが、もう少しのあいだ、有志だけでも集まりたいとの希望が多く、付録として続けることに決まっていた。それを受けて今年も6月12日に開催することとなった。

地域の利便性を考えて、ずっと東京に集まっていたのだが、今年は趣向を変えて千葉の新しいゐのはな同窓会館で行うことにした。

80も半ば過ぎて、もう生涯に二度と大学に来ることは無いだろうとの思いを込めて決めたのである。遠くまでだけに今回は、会員13名、奥様2名と例年より少ない出席者となった。卒業以来初めてという人もいたり、迷ってなかなか辿り着けず、大幅におくれて心配したりのハプニングもあった。

会に先立って、4月19日に亡くなった宮内好正君を悼み黙祷を捧げた。彼は千葉大学で初めて、人工心肺を使つての直視下心臓手術を成功させ、後に第一外科助教から熊本大学の外科教授に選任された実績を持つている。

新しい集會場で、みどり寿司の出前料理をつまみながらの懇談となった。旧大学院を眺めながら、昔懐かしい話、最近の変つた話題、不在の友人達の動向と和やかに話は弾んだ。近況報告ではやはり殆どが自らの病状報告のようなもので、あまり景気の良い話題も見られないが、こうして出てこられるだけでも幸せなのだと思われるのである。また、いまだに、殆ど毎日一人で診療を続けている方もいて感嘆した。

会食が終わつて、学内の見学を行った。旧病院の横の大木や、旧精神科棟の前を抜け、連絡道路に出たときは、眼前に広がる景観の変貌に一驚した。60年以上も前にあつた、講堂、基礎教室、学生会館など私達の青春の名残は、当然ながらきれいなさっぱりなものもなく、近代的な高層の新病院が立ち並んでいるのである。休日にも拘らず、同窓会や病院の関係の方の案内で、新外来診療棟の中を見学した。開放的で広い充実した最新の施設には全く感嘆した。そして、かつてわれわれの学んだ旧病院の各科が、いかに閉鎖的で暗く診療内容も単純なものであつたか、長い時代の変化を改



めて思い知ったのであった。今回の五五会は疲れたが、実り多いもので、皆も満足できたものと思う。それにしても、年齢を考えれば、この付録の会はあと何年続けられるであろうか。

写真右から  
前列：滝口夫人、永野夫人、



清水良平、新井多喜男、滝口光雄、永野俊雄、南園義一、後列：藤山嘉信、浅見敦、高橋康、指田和明、伊藤敏夫、志村昭光、小林富久、加濃正明

(藤山嘉信)

みのほな37クラス会 (昭37)

紫陽花の美しい梅雨入り直前の平成28年6月4日(土)午後5時半より、都心で俯瞰出来る東京ドームホテル42階で開催した。出席者は、青森の福土和夫君、郡山の十林賢児君、静岡の吉川正宏君を含め33名。昨年、体調不良で不参加の伊東治武君と伊藤文雄君も元気な姿を見せてくれたが、体調不良での欠席返信、返信の無い友が気懸りだ。常任幹事の杉岡昌明が前回の会計報告、今回の返信状況などを報告し返信を供覧、

昨年の会以来、亡くなった故山口國行君、故奥山隆保君、故満野博章君を含む21名の物故会員に黙祷を捧げて偲び、懇親会へ、司会は常任幹事岩倉弘毅君。乾杯は「AKBS会」(ミニ37会、年4回)の世話人勝田貞夫君、故満野君の終末緩和ケアの状況をも話してくれた。卓盛料理とフリードリンクを愉しみながらの近況報告では千葉県医師会長として長きに亘り千葉県の地域医療のために尽力してくれた藤森宗徳君も勇退により健康を回復して、久しぶりに元気な顔を見せ、犬の散歩でロコモティブ症候群を克服していると話していた。精神科医現役として都の要請で、今なお児童相談所や警察に協力している石山淳一君は、母子家庭の孤育てと貧困の現状を嘆いていた。多くの会員が、ロコモの話、膝の人工関節、脊柱の手術などの体験談とA fやステントによる抗凝固剤(ワーファリン、NOACなど)服薬の話、診断の難しい老人性認知の体験談、腹腔鏡手術後のトラブル体験談、一番注目したのは、進行性すい臓がん(CA199:1700以上)を母校の宮崎勝教授独自開発手術法で一昨年12月に手術し、現在は飲食を愉しみ、体重も増加していると壮健な姿を見せ話していた事、みのほなSchuleとして誇らしい限りだ。自己の病気体験談が続く中、まだまだ、専門職としてフルタイムで活躍する生涯現役もかなりいることは心強い。アラエイトの戦中派なので、戦後70年の節目に、山本駿一君は引き揚げ前の居住地中国新疆へのけじめ旅行で再訪し、老人への優しい現地の対応に感服していた。中でも、入枝幸三郎君の薩摩川内市旧滄浪(そうろう)小学校へ疎開時、戦争終結直前の昭和20年7月30日朝、米機の空襲で勤勞

奉仕に集まって亡くなった児童7名の最後の犠牲者慰霊祭への参加報告が胸を打った。当日の新聞地方版を調べたら、「千葉市から参列した入枝幸三郎(80)さんは疎開先小4年生、空襲の際に、戦闘機のパイロットの顔も見えた、一緒に逃げた両隣の児童は機銃掃射で亡くなったという。」「生かさ

れた感じがする。今回慰霊ができて私も心の区切りが出来たようだ」と話した」との記事を見つけた。入枝君は来月患者さんに惜しまれ乍ら廃業するという。私たちが世代は夫々に、戦争の傷跡を心に残している。永遠の不戦を祈る。「年老いて頼れるものは長年連れ添った老妻しかいない」とか、早く連れ合いを亡くした会員は「女房を大事にしろよ」と叫んでいた声が耳から離れない。みんな老境に入ったなと思う。日浦利明君の恒例のハーモニカ懐かしのメロデー、油井真知子さんのコーラス仕込みの美声披露後、十林君の中締めで来年の再会を約し暗くなった後楽園を後にして2次会もせずに家路へ急いだ。「散る花も残れる花も語らばや」小野幸雄君作。写真は岩倉君提供。

写真右から

前列：吉川正宏、高井満、岩倉弘毅(常任幹事)、杉岡昌明(常任幹事)、油井真知子、矢野靖子、油井信春、二列目：石山淳一、大野孝則、中村嘉孝、柳沢健一郎、田島誠、十林賢児、福土和夫、宍倉正胤、伊藤文雄、入枝幸三郎

三列目：藤森宗徳、小野幸



雄、本多満、土井修、日浦利明、伊東治武、勝田貞夫、森豊、瀬川襄、山根友二郎、小林總介  
最後列：大原啓介、高梨健治、山本駿一、井坂誠二、伯野中彦  
(逆光で後ろの方が不鮮明なことをお詫びします)  
(杉岡昌明)



ちよに会(昭42)

昭42年千葉大医学部卒業の同級会は千葉大、42で「ちよに会」と名付け、例年6月第一日曜を開催日と決めています。卒後49年目にあたる本年は母校ツアーとし、新築の外来棟と改装した記念講堂を見学し、懐かしい旧病院などを楽しんだ後、新装なった同窓会館にて懇親会と計画しました。

幹事は永久幹事の守屋秀繁君と当番幹事の伊藤達雄で、施設見学は事務に協力をお願いしました。守屋君が現地の手配を、伊藤が連絡などを分担して行いました。

平成28年6月5日の当日は天気予報通り朝方は霧雨でしたが、11時に集合場所の旧病院正面玄関に着く頃はすっかり上がって、暑くも寒くもない優しい天候となりました。前医学部事務長の渡邊栄人さんのご案内にて本日の施設資料を戴き、まず改装なった記念講堂で、1963年落成当時日本でも有数のモダンな建築であったことを知り、リニューアルされた内外装などをみて納得。次は旧病院地下にあるCAL (Clinical Anatomy Lab) の、これは全国に先駆けて2010年より稼動

しており、新鮮屍体を用いて手術、検査などが確認でき、手術室さながらの設備もあり、医療の安全、進歩に大きく寄与するものです。

他大学からの見学、使用申し込みが多いとのこと、説明の鈴木崇根先生の誇らしげな様子がとても頼もしく思いました。

そして連絡道路を経て新外来棟に行き、CCSC (China Clinical Skills Center) にて朝比奈真由美先生より丁寧な説明を受けました。医療面接から急変患者までの初期対応、分婉やICU、内視鏡、鏡視下手術などが並びトレーニングができません。50年前と異なり、「今の学生は至れり尽くせりだ。これではサボれないなあ」と云うのが第一印象。そこで「出席を取りますか？」の問いに対し、「全員出席で、出欠はとりません」の答えにナルホド！座学ではなく、モデルをつかった臨床実習にて卒後すぐに臨床に臨める反面、「考えることが少なくなってしまうのでは？」と云うのが第二印象でした。5階の化学療法室も広々、明るい雰囲気、患者の立場での設計でした。

再び連絡道路を渡ると、下の野球場では関東医歯薬リーグでしょうか、試合をやっており、たちまち50年前の思い出がよみがえります。それにしても、青春時代に汗を流したテニス、バレーボール、バスケット、卓球、柔道など医学部の運動施設が減少していることが寂しく思われました。

ここまでご案内、ご説明をいただいた医師、看護師、事務の方々はこの場を借りて感謝申し上げます。今回は医学部、病院のほんの一部の見学にすぎませんでしたが、母校の実態を知る意味で有意義なものでした。今後学生、父兄、研修生、卒業生、一般市民などを対象としたそれぞれのツアーを企画したら大学、病院の評価が上がるものと思いました。

12時半頃に同窓会館にてツアーに参加しなかった人達を交えてまず集合写真(小柳朝明君撮影)、そして挨拶と物故者への黙とうの後、片倉氏による乾杯の発声に懇親会に入りました。最近の物故者は足立倫康君(平成27年10月)、ウン・シータン君(平成25年10月)、岡崎卓見君(平成27年3月)の3氏であり、これで94名中19名が幽冥界を異にしました。

続いて今回出席者の30名に各自の近況などを順次述べていただきまし。以下皆さんの話を披露します。谷口克君の叙勲にともなう挨拶では、天皇陛下にお目にかかったのは5回で、御進講を行ったこともあり、印象や乾杯、挨拶における皇室のしきたりなど、さらに現在の研究についても触れました。後期高齢者の入り口にある我々ではありませんが、ほとんどはまだまだ現役の仕事をそれぞれのペースで行っており、医師免許が終身制であることを享受しています。ゴルフなどを楽しむ者が多い一方、サッカー、水泳や剣道を定期的に行い、身体を鍛えている者もあり、なかでも更科廣實君は剣道部の現役を倒してしまおうと豪語していました。またヴァイオリン、コーラス、旅行、カメラ、料理などに情熱を傾けている人もおり、話は大いに弾みました。トリは日本相撲協会横綱審議委員長である守屋君の「白鵬・稀勢の里」を中心の話となり、質問歓迎とのことで盛り上がりました。

私達42生はるのはな会の地方支部長を担当している者が多く、静岡の忍頂寺君、信州の宮坂君(当日欠席)そして東京の小生であり、るのはな会の活性化を訴えました。そして明年卒後50年を迎える私達として、何か記念になることをしようか！とのことで、あらかじめ渡邊さんと相談したところ旧病院正面玄関の大時計が故障し、年代物で修理不能とのことで、出席者の了解のもと、「ホールクロック寄贈」に落ち着きました。当日寄付を募り平成29年寄贈が実現するように取り計らいました。また、来年は卒後50年の「メダルと感謝状」がるのはな同窓会から授与されることと、今年からHome Coming Dayが11月5日の亥鼻祭で催される予定であることを伝え、積極的に参加してもらおうように促しました。次回は更科君が担当幹事で千葉で再会することになります。

今回出席できない人たちの中で、都合のつかない方のほか、体調不良で千葉まで行けない方、入院中で重体と思われる方、出席したくないニュアンスを漂わせる人などさまざまでした。同級生の皆様のご健勝を祈り「ちよに会」の報告とします。

我々の仲間には、サントリーミステリー大賞を取った高部吉庸君がおりましたが、今回は担当幹事の拙文となりました。

- 写真右から
- 前列：関三千代、林益子、能勢晴美、森田喜崇子、谷口克、守屋秀繁、伊藤達雄、田中弘一、大沼直躬
  - 後列：小柳朝明、中村謙介、高橋弘昭、高橋稔、西牟田敏之、門馬公経、小林茂雄
  - 遠藤保利、板谷喬起、川島庄平、片倉透、更科廣實、忍頂寺紀彰、森田清、藤本章、龍野勝彦、石井従道、鍋島和夫、伊佐治尚文、関隆郎、笠貫宏
- (伊藤達雄)





元(はじめ)会(平元)  
第4回平成元年卒同窓会

平成28年3月13日(日)、元(はじめ)会が4年半ぶりに幕張のホテルザ・マンハッタンにて開催されました。今回は、以下の8名の教授就任お祝いと3人の千葉大学臨床教授就任のお祝いの兼ねて、総勢50名が集まるにぎやかな会となりました。

初めに、前回の同窓会以降に逝去された同級生、赤間晴雄、山本光博両先生への黙祷、その後参加最年長の齋藤秀一先生の乾杯の音頭で会が始まりました。次第に会話も弾み、皆が打ち解けた頃、メインとなる教授就任の挨拶と記念品の贈呈が行われました。以下、氏名と所属を示します(50音順、敬称略)。加藤厚・国際医療福祉大学三田病院外科・消化器センター、佐粧孝久・千葉大学予防医学センター・運動器疼痛疾患部門、関根郁夫・筑波大学医学医療系臨床腫瘍学、田垣内祐吾・帝京大学ちば総合医療センター麻酔科、出澤真理・東北大学大学院医学系研究科細胞組織学分野、長村文孝・東京大学医学科学研究所先端医療研究センター・先端医療開発推進分野、

松崎恭一・国際医療福祉大学三田病院形成外科、南野徹・新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科、千葉大学臨床教授には菊池周一・精神科、北村伸哉・救急部、平栗雅樹・アレルギ

ピックイヤーに向けての再会を祈念し、写真撮影の後に、幹事を代表して北村伸哉先生の1本締めで閉会となりました。  
写真右から  
前列・平栗雅樹、松崎恭一、菊池周一、田垣内祐吾、南

は評されなかつた私たちが、いざ蓋を開けてみると、以前に教授に就任された先生たちと合わせると現時点で十数人が「教授」の称号を得ており、この勢いは今後も止むことがない状況(?)となつています。



野徹、佐粧孝久、関根郁夫、長村文孝、加藤厚、松田兼一、出澤真理  
二列目以降出席者：門倉真人、八木さやか、五十嵐あゆ子、原木真名、村上敦浩、北村伸哉、有賀隆、長谷川浩、千葉隆一、武井一城、中村俊太、杉戸一寿、須田明、小澤健、皆川真規、八木毅典、木下知明、石井康宏、小野寺誠、坂中進、齋藤秀一、小林幸平、日野俊明、高瀬完、真田昌彦、池田義和、奥野厚志、桜井康良、高相晶士、手塚健太郎、須関馨、南谷幹史、中村祐之、花澤豊行、田口奈津子、小林裕之、浜野ナナ子 (小林裕之)

平成6年卒同窓会

平成28年4月17日、千葉県千葉市幕張のホテル・ザ・マンハッタンにて平成6年卒同窓会が行われました。今回は諏訪園靖君の千葉大学大学院医学研究科・環境労働衛生学教授就任祝賀会を兼ねての会となりました。当日は強風による京葉線の交通混乱がありました。同期初の教授就任のお祝い、また久しぶりの同窓会ということも重なり、最終的に39名が出席しました。会は齋藤武君の名司会で進行し、まず福田勝之君により、学生時代から諏訪園君が大変真面目で、学生時代の衛生学での実習に現在の道を志すきっかけがあっただろうエピソードも交えた開会の挨拶がなされました。指山浩志君の音頭により乾杯となりました。久しぶりの再会に各所で話に花が咲く中、諏訪園君には、教授就任までの経過や、労働衛生学的・環境衛生学的な社会貢献の継続およびさらなる発展、また今後の千葉大学医学部を支えていくとの意気込みを挨拶していただき、一同、大変盛り上がりました。また、各々の現状をお互いに直接、情報交換しあうことのできるいい時間を過ごしました。集合写真には間に合いませんでしたが、唐木(赤羽)千穂さん、網代洋一君、黄舜範さん、國吉一樹君も参加されました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、大野一人君の挨拶にて会は盛況のうちに、近々の再会を約して閉会となりました。

その後、海浜幕張駅近くで二次会も催され、強風の続く中、秋池太郎君、栗山根廣君、門野源一郎君も駆けつけ、諏訪園君の教授就任を共に祝福、旧交を深めました。また、さらに名残惜しい有志で三次会まで行われ、解散となりました。(大変忙しい中、会場確保など事務局をやってくれた大鳥精司君ありがとうございました。)

写真右から  
前列・小谷俊明、大鳥精司、佐々木(古瀬)陽子、香西由美子、加藤直子、諏訪園靖、永沢(白石)佳純、本間(鈴木)澄恵、蓑輪(加藤)百合子、青木保親  
二列目・田原正道、吉田元、長哲、齋藤武、黒岩教和、寺本靖、大野一人、藤井隆之、丸田哲郎、高森尉之、染谷知宏  
三列目・河野世章、碓井宏和、西村克樹、植田琢也、平野聡、鶴飼伸一、小高謙一、森居真史、永渕弘之  
最後列・指山浩志、福田勝之、東(加治木)秀隆、松戸裕治、蓑輪勝行 (田原正道)





# 研修プログラム

## アレルギー・膠原病内科

千葉大学大学院医学研究院  
アレルギー・臨床免疫学

教授 中島裕史 (宮崎医大・昭63)

千葉大学アレルギー・膠原病内科の起源は、1972年にジョンズ・ホプキンス大学(石坂公成研究室)から帰国した富岡玖夫先生が旧第二内科に免疫アレルギー研究室を創設したことに遡ります。2004年、臓器別診療科再編に伴い、第二内科免疫アレルギー研究室は、附属病院アレルギー・膠原病内科を担当することになり、そして2009年、基礎講座である旧遺伝子制御学と統合し、現在の基礎・臨床ハイブリッド型アレルギー・膠原病内科(講座名はアレルギー・臨床免疫学)が誕生しました。当科では、難治性免疫疾患の診療から生じた疑問を分子・細胞生物学的な手法を用いて解明し、新規治療法の開発に繋げることを目指しています。

実践してきます。主な対象疾患は、気管支喘息、食物アレルギー、アナフィラキシー等のアレルギー疾患と、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、強皮症等の自己免疫疾患です。膠原病に伴う間質性肺炎、肺高血圧症、中枢神経病変などの診断・治療に加え、好酸球増多性疾患、不明熱等の鑑別診断の実績も豊富です。超音波を用いた関節病変の評価は国内トップレベルの実績があり、県内外から多くの見学者が訪れています。難治病態や稀少疾患の新規治療法の開発を目的とした治験・臨床試験・臨床研究も積極的にを行っています。来年度から試行予定の新内科専攻プログラム(千葉大プログラム)においてもこれまでの研修コンセプトを継承し、専攻医1~2年目(医師3~4年目)は、臓器にとらわれず全身を診

ることができ、関連病院での内科ローテート研修を行います。専攻医3年目は、アレルギー・膠原病領域のサブスペシャリティー研修を千葉大病院或いは関連病院で行い、専門性を磨きます。また、希望者は同時に大学院にも進学し、基礎研究・臨床研究をスタートすることで、新専門医制度による学位取得や、サブスペシャリティー領域の専門医取得の遅れを防ぎます。当科では、基礎・臨床ハイブリッド型講座としての利点を生かし、充実した指導体制のもと、質の高い基礎研究や臨床研究により学位を取得することが可能です。研究内容や実績は当科のホームページ(<http://www.mchiba-rjd/class/allergy/index.html>)をご参照下さい。学位取得後は、大学での研究継続、海外留学、連携病院(旭中央病院、松江市立病院、成田赤十字病院、市立青葉病院、横浜労災病院、済生会習志野病院など)でのサブスペシャリティー研修継続など様々な選択肢があります。

近年の免疫研究により、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの難治性免疫疾患について分子レベルでの病態解明が進んでいます。しかし、患者の多くは、未だに非特異的、且つ副作用のリスクの高いステロイドや免疫抑制薬による治療を受けているのが現状です。千葉大学アレルギー・膠原病内科では、難治性免疫疾患の克服を目指す仲間を歓迎します。

## 千葉県済生会習志野病院

院長・千葉大学臨床教授

山森秀夫 (昭47)

当院の正式な名称は「社会福祉法人恩賜財団済生会千葉県済生会習志野病院」で、明治44年に明治天皇の下賜金を基金として設立された済生会が母体であり、全国79病院のうちの一つです。平成13年6月1日国立習志野病院の移譲を受けて誕生し、15年経過した若い病院です。当時39名であった医師数は現在105名で、機が足りずこの秋に竣工予定の手術棟内に医局を増設予定です。人口172万人の東葛南部医療圏に属しており、習志野市にある400床の急性期病院です。

初期研修は基幹型10名を受け入れ過去6年連続でフルマッチしており、今では千葉県有数の臨床研修病院に成長しました。これは内科領域すべてにわたる研修体制が整っていること、研修医を労働力とみなさず教育を徹底していること、救急を断らず年間4000台の救急車を受け入れていることがその原因と思われる。また済生会の理念である屋根瓦研修、つまり上の学年が下の学年を指導してゆくという姿勢も徹底されています。たとえば当直では1・2年の研修医がペアで救急患者に対応し、2年生が1年生を教え、さらに指導医たる当直医がフィードバックをするという体制が整っており、安心して当直業務をこなせるようになっていきます。この理念の習得のため、済生会初期研修医セミナー、ディズニースィーでの研修、ハワイ大学での後期研修、指導医講習会など済生会全体で協力し研修医教育に積極的に取り組んでいます。当院は救急患者が多いため、初期研修医は救急対応はじめ、各科

での研修を通しさまざまな症例・手技を学んでいます。手が打てるかどうかより、まず安全な医療、リスクマネージメントができること、患者を理解し患者から信頼される人格を涵養することを初期2年間で最大の目標に掲げています。また2年生には週1回総合内科外来を担当してもらい、終了後に問題点をフィードバックするカンファレンスで臨床経験を高めてもらっています。一方診療を離れた研修としては、毎週月曜日の早朝、隔週で日本語と英語の症例検討会を担当者の司会で行い、金曜日は各科の医師にキーポイントレクチャーを行ってもらっています。診療を行う上でのエビデンス、文献検索に関しても千葉県電子ジャーナル化をリードすべく、あらゆる文献検索がベッドサイドでできる環境を整えています。CPCは年5回行い初期研修医2名で担当してもらっています。学会発表も研修医が年に1回はするよう義務化しています。当院は来年から開始予定の新内科専門医制度でも基幹病院として認められました。来年以降、初期研修から継続して当院での研修が可能となりますので、千葉大学の学生にはさらに夢のあるプログラムを提供していきたいと思っています。最後に当院スタッフのみなさまは同窓会を紹介いたします。

- 消化器科：阿部隆和(平3)、平井太(信州大・平6)、黒澤浄(平25院)、小川綾(平26)
- 循環器科：小林智(昭58)、山本豊(昭60)、坂本直哉(昭62)、白石博一(平4)
- 中尾元栄(金沢大・平4)、横山健一(金沢大・平6)
- 竹田隆一(平14)
- 呼吸器内科：黒田文伸(杏林大・平8)、家里憲(平11)、篠原昌夫(宮崎医大・平13)、露崎淳一(平14)、山内圭太(平14)、伊藤誠(平24)、井坂由莉(平25)
- リウマチ科：縄田泰史(昭51)、渡邊紀彦(平3)、高橋成和(平7)、生澤太雅(平23)、河野千慧(平25)
- 杉山隆広(平26)
- 血液内科：趙龍桓(平2)、藤川一壽(平8)、松井慎一郎(平26)
- 代謝科：藤原敏正(昭60)
- 神経内科：上司郁男(滋賀医大・昭59)、牧野隆宏(三重大・平14)
- 小児科：多田弘子(平9)
- 精神科：登坂真二(長崎大・平17)、古閑麻衣子(平20)
- 外科：山森秀夫(昭47)、山本和夫(昭51)、太枝良夫(昭53)、越川尚男(昭55)、鈴木弘文(帝京大・平元)





岡屋智久(平4)、唐木洋一(東邦大・平7)、福田啓之(群馬大・平8)、中村祐介(平16)、三島敬(平17)、高木論隆(平22)、整形外科・原田義忠(昭57)、鳥飼英久(昭63)、井上雅俊(日本医大・平3)、宮城仁(琉球大・平9)、宮坂健(平10)、北原聡太(東京医大・平13)、小川裕也(宮崎大・平22) 脳外科：中村弘(昭53)、杉山健(昭58)、藤川厚(平13)、石井公祥(平26) 呼吸器外科：木村秀樹(昭48)、長門芳(平21院)、森本淳一(平17) 皮膚科：中村康博(平6) 泌尿器科：三上和男(愛媛大・平3)、関田信之(平8)、藤村正亮(平17院)、西川里佳(平19)、杉山真康(平25) 眼科：豊北祥子(平8)、太和田昌枝(平13)、古谷奈々(平22) 麻酔科：須藤知子(昭61)、篠塚典弘(昭62)、飯寄奈保(平15院)、土橋玉枝(平11) 放射線科：池田充顕(平7) 病理診断科：菅野勇(昭47) 健診センター：田代重彦(昭43)、高地刀志行(昭44)、江原和枝(新潟大・昭48) 歯科口腔外科：山野由紀男(平21院)

## 研修医だより

### 血液内科医を志して

千葉大学医学部附属病院  
血液内科

田村百合(平26)



私は平成26年3月に千葉大学医学部を卒業し、成田赤十字病院で2年間初期臨床研修を行いました。初期研修のときに血液内科をローテートさせていただき、

その際に血液内科という診療科の奥深さや、やりがいを感じ血液内科医を志しました。千葉出身・千葉大学医学部卒業であるため千葉の医療に貢献したく、千葉大学医学部附属病院血液内科に入局しました。入局後は病棟での主治医として診療にあたっており、病棟医は5人おり、その5人で仕事を分担し、また、時には助け合いながら日々の業務を行っております。そのバックアップとしてさらに上級医の先生方がいらっしや、病棟での

診療にあたっております。この4月からは後期研修医になり主治医という立場になりました。そのため初期研修のとき以上に診療に対する責任が強くなりましたが、同時に、責任をもつようになり、より真剣に患者や血液疾患に対して向き合えることができるようになりました。初期研修では内科を含め様々な科をローテートしておりましたが、血液を専門とするようになり、まだ数ヶ月という中で専門知識も不十分で治療方針に迷うことも多々あります。しかし当科は誰でも気軽に相談することができ、まだ未熟な私にも丁寧に説明をしてくださいます。また普段から気にかけてくださり、非常に恵まれた環境で診療をさせていただいております。同期は合計3人おり、個人的なメンバーが揃い、和気藟々と過ごしています。同期だけでなく多くの先生方

# 第51回 The 51st Annual Meeting of the Japan Medical Society of Spinal Cord Lesion

## 日本脊髄障害医学会

会期 2016年 11月10日(木)～11日(金)

会場 幕張メッセ 千葉市中央区幕張2-1

会長 神原隆次 [東京大学医学部センター佐倉病院 脳神経科 教授]

副会長 中川晃一 [徳島大学医学部センター 脳神経科 教授]、長尾建樹 [京都大学医学部センター 脳神経科 教授]

大会幹事 神経内科・整形外科・脳外科 先生方

テーマ: 患者さん中心の脊髄医療 - 目の前の症状の改善にむけて -

**PROGRAM**

特別講演

1. 「患者が医師や専門職に望むこと」  
大演 員 (NPO 日本脊髄脊髄学会)
2. 「神経伝達物質の歴史 Historical Review of Uro-Neurology」  
Clare J. Fowler (ロンドンQueen Square 神経内科 教授)
3. 「脊髄脊髄障害と国際脊髄学会 Spinal Cord Diseases and ISCoS」  
Jean Jacques Wyndaele (フランスUniversité de Liège The International Spinal Cord Society (ISCoS) 国際脊髄学会 会長 (Spinal Cord, Chief Editor))

教育講演、リレーレクチャー、モーニングレクチャー、一般講演

〒545-8511 大阪市東淀川区西中津2-1-1

TEL: 06-6642-1111 FAX: 06-6642-1112

E-mail: jasca51@cs-oto.com URL: http://www.cs-oto.com/jasca51/

と日常の些細なことを話したり、時には飲みに行ったりと仕事以外でも楽しく過ごしています。そのため科の雰囲気がとても居心地がよく、些細な質問なども気軽にできたり、お互いに切磋琢磨し高め合うことができるのだと思います。まだ血液内科医としての経験は数ヶ月ですが、上記のような、非常に恵まれた環境で仕事ができている。これからもっと多くの経験を積み、現在指導していただいている先生方に報いることができるように精進していきたいと思っております。

## 革新的製品に 思いやりを込めて。

Lilly unites caring with discovery to make life better for people around the world

日本イーライリリー株式会社は、イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるように革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。

提供中の治療薬

- 統合失調症(ラファ) 認知症(リソナ) 注意欠如・多動症(AD/HD)
- がん(がん治療薬) 糖尿病(インスリン) 痛風(カササゲ)
- 糖尿病 ●成長障害 ●骨粗鬆症 など

開発中の治療薬・診断薬

- アルツハイマー型認知症 ●関節リウマチ ●糖尿病 など

革新的製品に思いやりを込めて。  
日本イーライリリー株式会社  
〒651-0086 神戸市中央区福山通7-1-5  
www.lilly.co.jp



# 課外活動団体だより

## 亥鼻フットサル部

医学部3年 主将 一戸 良太

亥鼻フットサル部は2013年に亥鼻フットサルサークルという名で設立し、今年度に改名を行った最も新しい部活です。サークル創設当初は他の部活と兼部の部員が多く、来られるときに来るという自由参加の形態をとっていましたが、十分な人数が集まらないことが多くなってきたため、今年度からは参加義務の部活として新たに再スタートを切ることとなりました。

部活への転換を機によりよい団体していきたいという所存です。部員は医学部、薬学部、看護学部の三学部が所属しております。

練習は週2回を原則としていて、毎週金曜日の夜と日曜日の日中に行っており、ですが、コート予約の関係でそれらの曜日に練習が出来ない時は、火曜日の夜や土曜日の日中に行う場合もあります。場所はポートアリーナや千葉市内のフットサル場、西千葉キャンパスのサッカー場の脇を利用しています。練習ではみん

なが集中して真剣に取り組んでおり、良い意味での緊張感がありつつも、合間では談笑が見受けられるなど、明るい雰囲気のもとで活動しております。各々が声を掛け合っており、アドバイスを交えながら、日々切磋琢磨し技術の向上につとめています。練習量が週2回であり比較的少なめなのは、部員の自主性を尊重するとともに、学生の身分たる学業にも集中して取り組めるようにしているためです。基礎練習や体力トレーニングなどの自主練習に取り組んでいる部員も多く、部活も学業もどちらも頑張ることのできる環境にあります。

フットサル部として参加する大会について紹介致します。フットサルという競技は他部活の競技と異なり、東日本医科学学生総合体育大会(東医体)の開催競技ではなく、大会の制度を整えている段階であり、現在は東日本の各医学部フットサル団体の幹部主導のもと自主的に大会が春、夏、秋に

行われます。その中の夏の大会がフットサルでは東医体という位置づけであり、最も力を入れて取り組んでいる大会です。一昨年と昨年度はともにベスト8という結果で着実に力をつけています。今年度は目標を優り組んでいる次第です。この他にも全医体に出たるオールドメダル大会や民間の大会にも出場しています。

フットサルはここ数年で有名になってきたスポーツです。2012年のフット

サルワールドカップに三浦知良選手が出場するなどして、フットサルを知らない人は少なくなりました。競技人口は今や370万人とも言われ人気も高まっています。わずか3年前に設立した部活ですが、今後とも部員一同が力を合わせせよ良い団体にしていくよう精進して参ります。何卒応援宜しくお願い致します。

フットサル部役員  
主将 一戸 良太  
主務 金子 侑暉  
副務 齊藤 可紗



## Chiba Inohana Magicians' Society (CIMS)

医学部3年 代表 久保田 姫子

Chiba Inohana Magicians' Society (CIMS) は、2015年4月に設立したマジックサークルです。月に1回程度、放課後に同窓会館の地下和室にて活動しております。

最近ではテレビなどで目にする機会も多くなりましたが、マジックには大きく分けて3つのタイプが存在します。舞台上で大人数の客に対して鳩やイリュージョンなど大きなものを扱い基本的に無言で行なうステージマジック、ある程度の客数に対してある程度の距離で多少コミュニケーションをとりつつ行なうサロンマジック、少人数の客と対面してランプやコインなどを用いるクロスアップマジックの3種類です。CIMSでは、主にクロスアップマジックに力を入れて練習しております。部員のほとんどがマジック未経験の状態ですが、さらに、ほとんどの部員が兼部しておりますが、簡単なランプマジックをすぐに習得することが出来ます。



部新歓祭におけるステージマジックの発表、亥鼻祭におけるmagic cafeの出店を行ないました。薬学部新歓祭では、活動開始から日が浅い状態でしたが、1人1人必ず習得し、それをつなげるという形で1つの演技を作り上げることができました。magic cafeでは、ワッフルやドリンクの購入をさせていただいたお客様に対して、クロスアップマジックをお見せするという企画であり、小さなお子さん連れのお客様を中心に大盛況でした。また、部員にと

っても、練習したマジックを人前で披露する、非常に貴重な機会となりました。今年度も亥鼻祭に向けて練習をしており、昨年の経験を活かし、全体としてより楽しんでいただける空間づくりを考え、また1人1人の技術の向上を目指しております。

今後は、亥鼻祭での出店を継続していくと同時に、さらに発表の場を増やせるようにしていきたいと、発展させていきたいと思います。

CIMS役員  
代表 久保田 姫子  
副代表 高橋 満里菜  
会計 石川 凜太郎

設立1年目である昨年の主な活動内容として、薬学



# 学内情報

## ホームカミングデー開催について

ののほな同窓会常任理事 白澤 浩 (昭57)

母校に帰る日として、「ホームカミングデー」を同窓会として開催することが懸案となっておりまして。開催に賛成の声が多く、開

催にあたって、様々な案が出され、昨年度行った評議員に対するアンケートでは、開催に賛成の声が多く、開

催日は11月の亥鼻祭時の希望が多く聞かれました。本年は、試行として、亥鼻祭初日に、ののほな同窓会館に資料を展示する同窓会ブースを設置し、会員用休憩所として見晴らしの良い会議室を用意することとしました。気軽に母校を訪れ、亥鼻祭のイベントも楽しめる日として頂ければと考えています。

来たる11月5日(土)及び6日(日)の二日間にわたり、本年度も亥鼻祭を開催する運びとなりました。亥鼻祭とは千葉大学亥鼻キャンパスにおいて行われます医療系大学祭で、医学部・看護学部・薬学部の三学部が協同して実施しております。医療系キャンパスという特徴を生かし、その企画内容も趣向を凝らしたものととなっております。

例えば、身体ふしぎ発見という企画では、血圧測定や骨密度測定だけでなく、実際に豚の臓器に触れて身体についての理解を深めることができます。心急救護という企画では、レサシアンやAEDを実際に用いてBLSを学ぶことができます。また、医療系有名人講演会という企画では医療者の方をお招きして講演を行って頂いており、例年来場者の方々に好評を頂いており

## 十四周年亥鼻祭開催のお知らせ

亥鼻祭実行委員会委員長

医学部四年 宇津野 瞳

ます。今年は東京ベイ・浦安市川医療センターで救急部長として日々ERの診療に携わっておられます志賀隆先生をお招きする予定です。さらに、今年は新たな試みとして、ホームカミングデーが企画されております。亥鼻祭同日(初日のみ)に同窓会館にて催されますので、ぜひお気軽に亥鼻キャンパスにお越しください。その際に、亥鼻祭のイベントにもお立ち寄り頂ければ幸いです。本年度の亥鼻祭の

今年も皆様との出会いや関わりを築ける大学祭を亥鼻生全員で創り上げることができるよう頑張りますので、ご来場を心からお待ちしております。

ののほな同窓会員の皆様を亥鼻祭にご招待

2016年11月5日

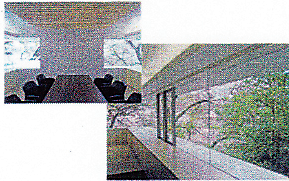
(亥鼻祭初日)

10am - 5pm

同窓会ブース:

ののほな同窓会館

会員休憩所: 同窓会館会議室



begin.continue

www.inohana.jp

医療系三学部による新しい亥鼻祭に来て、懐かしい緑深いキャンパスを散策してみませんか?

新同窓会館の同窓会ブースに休憩所を用意して、お待ちしております。是非、お立ち寄り下さい。お立ち寄り頂いた同窓会員には、記念品を差し上げます。

上映: 新ののほな同窓会館完成記念講演「箴言『獅鷹鷹目行以女手』の日本への伝播とその漢訳者」(松木明知先生\*、弘前大学名誉教授、日本医史学会理事)

展示: 135周年記念誌、オンライン同窓会報アーカイブ(DVD版)、白衣式DVD、各ののほな会支部会報、千葉大学医学部概要2016版、千葉大学医学部案内等

(ののほな同窓会所有)



\*松木明知著 日本麻酔科学史の知られざるエピソード (戦前編) (戦後編) 真興交易株式会社 医書出版部

「One for All All for One」



## 14th 亥鼻祭

千葉大学医・薬・看護学部大学祭 2016.11.5(土) 10:00-16:00 11.6(日) 10:00-16:00 開催場所: 千葉大学亥鼻キャンパス

参加企画

- 受験相談 ぬいぐるみ病院
- 空想医学 身体不思議発見
- 応急救護 準夜祭
- STAGE KIDS
- 看護のススメ
- 〇〇体験!アンビリ-パボー

## ☆会員総合補償制度のラインナップ拡充☆

2015年12月1日より施行されたストレスチェック制度に対応した「産業医保険」

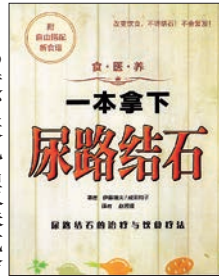
詳細につきましては、下記までお問い合わせください。

(株)パイオニア TEL:0120-36-8442



# 同窓会員著書の紹介

伊藤 晴夫(昭39)・成田 和子著  
**尿路結石(尿路結石)**  
 鳳凰出版传媒股份有限公司  
 江苏凤凰科学技术出版社



伊藤 晴夫(昭39)

この度、辰巳出版株式会社の海外版権本部の林敬淳氏より、日東書院から出版していた「尿路結石症の治療と食事療法」という一般向けの著書を中国で出版したいという申し出がありました。日東書院は辰巳出版グループの一員です。

以前、NHKの「ためし合点」より特別企画用の費用がでたので興味あるものを作るよう云われました。資金の面で実施出来なかった仮説の実証を兼ねて、「脂肪過剰摂取が尿中尿酸を増やすことにより尿路結石が出来易くなる」という実験を行うこととなりました。NHKが8人の男子を集めて、滞在型マンションに缶詰

詰にして、食事摂取と24時間尿中のカルシウム、リン、シウム酸、クエン酸、マグネシウムなどの結石関連物質との関連をみました。結果は私の予想通りでした。NHKの「ためし合点」を見た日東書院から依頼されて書いたのが前述の本で、この時に栄養管理をして貰った栄養士さんとの共著でした。

幸い「尿路結石症の治療と食事療法」は長い間、尿路結石関連本のベストセラーになっていました。内容は、今になっても古くなくていいように思います。尿路結石は頻度が高い疾患です。しかも、一度尿路結石に罹患すると再び罹患してしまう、すなわち極めて再発率が高いのです。したがって、尿路結石にかかったことのある方は特に注意が必要です。中国の方にも参考にして貰えれば幸いです。

横手 幸太郎(昭63)編  
**やさしい脂質異常症の管理**  
 株医薬ジャーナル社 定価2800円(税別)



脂質異常症は、血液中に脂の成分が増えすぎたり、逆に減りすぎて、健康に問題をもたらす病気です。代表的には、悪玉と呼ばれるLDLコレステロールが多くなり、善玉のHDLコレステロールが少なくなることで、心臓の血管に動脈硬化を生じると、心筋梗塞や狭心症など生命に関わる病気の原因となります。生まれつきの遺伝によって起きる脂質異常症もあります。大部分は運動不足や食事の乱れに起因し、欧米化と呼ばれる昨今の生活習慣の変化が影響しています。

食事や運動を見直したり、身体に合った薬を使って脂質異常症を是正すれば、動脈硬化を予防できることが明らかになっています。ただし、動脈硬化に対する脂質異常症の危険性は誰もが

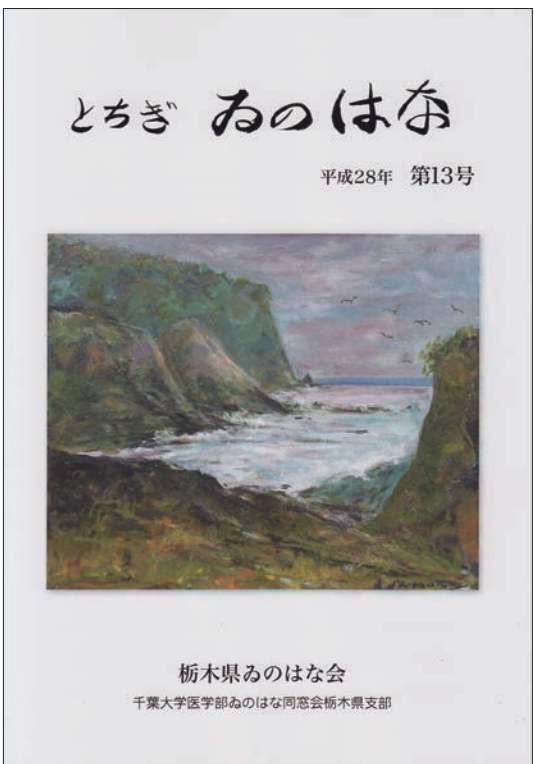
同じ訳ではありません。過去に心筋梗塞を経験したことのある人や糖尿病にかかっている人など、動脈硬化の病気を特に起こしやすい患者さんほど、より厳格に脂質異常症を管理することが求められます。

本書の作成にあたっては、「自分の両親や祖父母に理解してもらえらるること」を執筆者共通の目安として、できるだけわかりやすい解説を心掛けました。医療従事者のもとより、患者さんやそのご家族にも、本書を通じて脂質異常症の理解を深めて頂き、必要な時に適切な対応ができるための一助となれば幸いです。

(「はじめに」より抜粋)



## 栃木県るのほな会 平成28年 第13号



とちぎ るのほな 第13号

目次

- 巻頭言 岡尾 秀彰(昭44年) 1
- 平成27年度 栃木県るのほな会 総会プログラム 小池 正造(昭53年) 3
- 平成27年度 会費報告 松本 弘行(昭43年) 4
- 総会写真 5
- 特別講演1 糖尿病治療の進歩 村野 俊一(昭50年) 12
- 特別講演2 糖尿病学会委員に就任して 守屋 秀彰(昭42年) 16
- 田舎病院より 北原 明(昭53年) 19
- とちぎの医療センター 白澤 善博(平 9年) 20
- 上都賀総合病院 十川 康弘(昭55年) 21
- 済生会宇都宮病院 戸邊 豊穂(平 1年) 22
- 聖徳医科大学 深澤 一博(昭55年) 24
- 下都賀総合病院 村野 俊一(昭50年) 25
- 27年 上田 謙太郎先生を想ふ 岡尾 秀彰(昭44年) 27
- 寿老親光治先生を想ふ 木内 健二(昭48年) 28
- るのほな倶楽部 春の柱 市川 武雄(昭32年) 30
- 27年 心は何時も青春 五味 潤一郎(昭31年) 31
- 栃木県るのほな会 福田 幸直(昭34年) 32
- 福分病院開院22年目を迎えて 上川 昌弘(昭56年) 34
- すばらしき由紀人生 平澤 謙一(平 8年) 35
- お祝いのお返し 編集後記 40
- お祝いのお返し 41
- 栃木県るのほな会 全国 44

編集：元栃木県医師会 会務 山田 一郎



# 千葉県みのはな会

平成28年5月 第16号



目次

巻頭辞 岸 浩 1

ESSAY

長閑へのあこがれ ― 萩原と藤原・高野に對して ― 岸 浩 (S30) 3

ハートサイズ 千葉 浩樹 (S40) 8

二重・三重の 弘法よりお祝ひします 物中 正治 (S40) 10

清流のチロル・ミラポートで訪へたオーストリアの自然 橋本 哲生 (S30) 12

江戸時代後編―「藤原氏の証」(三田村直典)を軸に 橋本 哲生 (S30) 13

春の到来・いまどきの風景 坂中 中幸 15

自己紹介 小島 弘成 (S12) 16

自己紹介文 石村 雅樹 (S12) 17

追記

藤原 三枝 岸 浩 (S20) 18

葉中編 村山 朝臣 (S20) 19

式典 藤原 朝臣 (S20) 19

巻頭 岡田 文雄 (S30) 19

特別

高橋孝和君「まはるの時代」の再来である ― 塚本 正樹 (S12) 20

追記

平成27年度千葉県みのはな同窓会および同窓会役員名簿「知徳の實」のご報告 高橋 正樹 (S12) 21

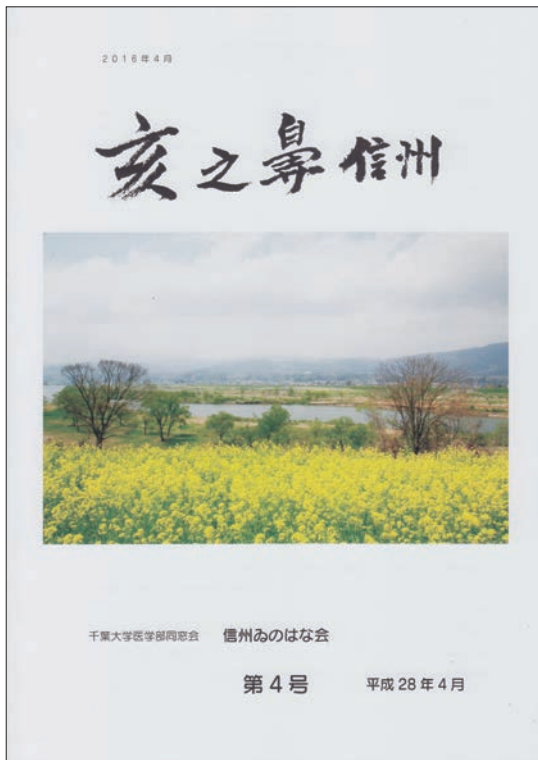
千葉県みのはな同窓会 28

編集後記・総務報告 29

表紙 岸 浩 (S30) (高 野 浩)

# 信州みのはな会

平成28年4月 第4号



亥之鼻信州 第4号目次

巻頭辞

巻頭辞 岸 浩 1

追記

野村の絆 信州みのはな同窓会 高橋 浩 (S42) 1

追記

熊谷先生の思い出 信州みのはな同窓会 高橋 浩 (S42) 2

ちよいと念兵衛 野口 博明 (S34) 4

追記

立川健一 野口 博明 (S34) 5

追記

ロンドン・パリへ一人旅 藤原 秀一 (S30) 6

近況報告 岸 浩樹 (S42) 10

私の幸福 内藤 基 (S48) 12

A1 小林 敏生 (S53) 13

長野中央病院 塩井 剛 (S54) 14

日本語って面白いー(「はろがのい」と「おノマド」) 葉田 英彦 (S56) 15

「50の手紙」 清水 俊行 (S56) 17

平成27年度 信州みのはな同窓会

総 会 18

会員紹介 19

会計監査報告書 20

特別講演「高橋式食事療法」の軌跡 千葉県みのはな同窓会 高橋 浩樹 21

記念講演「どの診療科でも必要な腫瘍経路抑制薬の知識と経験」 千葉県大学医学部放射線科 藤野 史朗 27

信州みのはな同窓会 28

会員名簿 29

表紙の言葉 信州みのはな同窓会 高橋 浩 (S42) 31

編集後記 37

新薬で、未来をひらく。



# MSD

MSD株式会社 www.msdc.co.jp



# 会員から

## 欧州医学史巡り — エジンバラ —

杉田 克生 (昭54)

最近独立運動で話題となったスコットランドの首都エジンバラは、スコットランドの政治だけではなく文化、教育の中心である。歴史的にはイングランドのオックスフォードやケンブリッジが英国では古い大学であるが、独自のカレッジ制度での教養重点主義を第一義としたため技術蔑視がみられ、その結果近世の医学教育ではフランスやドイツに後れを取った。真の医学教育はロンドンやエジンバラで行なわれ、アメリカからも多く留学した。

エジンバラ大学自体はTounis Collegeとして1583年創設された。エジンバラ中央駅を南に5分ほどSouth Bridge Streetを歩くと旧大学 (Old College) に到着する。中庭がある由緒ある建物であり、その受付で大学史の資料などが配布されている。その裏にはスコットランド王立博物館があり、クローン羊のドリーにお目にかかれる。博物

館だけあって、近代の蒸気機関など科学技術の成果が展示されている一方、太古のスコットランドの地質学的特性や先住のピクト人の粘土板なども紹介されている。

スコットランド王立博物館よりさらに西には、エジンバラ大学のキャンパスが広がっている。その一角に、旧医学部本館がある。玄関前ホールには、この医学部で学んだ医学者のプレートがはめ込まれている(写真)。有名人をあげると、ジョセフ・リスター、ジェイムズ・ヤング・シンプソン、リチャード・ブライト、トーマス・アジソン、トーマス・ホジキンなどである。壊血病の予防に功績のあったジェームズ・リンドも卒業生であり、「海洋医学のヒポクラテス」として賞賛されている。不勉強で知らなかったジョン・ヒュージ・ベネットなる内科教授は、1845年白血病を疾患単位として明らかにした (identity)

ことが示されている。

旧大学前の大通りをさらに数分南に歩くと、向かいにエジンバラ王立外科医協会がある。元は外科病院も含めた旧王立病院があった所である。王立外科医ホールやその博物館がある。後者は最近改修が終了したばかりで、医学史関連の展示物に加え、臓器別の病理標本が展示されている。日本では病理学教室に保管されているのが常であるが、こちらでは一般にも公開されている。個人では、コナン・ドイルの恩師でシャーロックホームズのモデルである



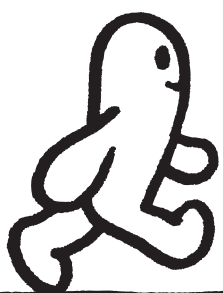
旧医学部本館玄関ホールにある著名人のプレート

ジョセフ・ベル教授が紹介されている (ベル麻痺のチャールズ・ベルとは別人)。患者を見ると職業や生地などをもの見事に言い当てたそう、現在の「診断推論」に通じるものである。なおさらかなり南下すると、リトルフランス地域に現医学部校舎ならびに王立病院がある。

1682年以来収集された図書が所狭しと置かれている。シンプソンが初めてクロホルム麻酔を使用した記録簿や、エジンバラ生まれのアレキサンダー・モンローIIが、1783年モンロー孔の存在を記載した書籍「Observations on the Structure and Functions of the Nervous System」も閲覧できる。大学で学んだ知識を再構築するのは医学史巡りの利点であり、会員の先生方にもお薦めする。今年11月にギリシア医学史巡りを計画中であり、るのはな同窓会オンライン会報に案内を掲載中である。

**開催予定の行事を  
お知らせください**

学会、研究会、  
のはな会、クラス  
会など種々の行事開  
催予定とその内容に  
ついて同窓会事務室  
へお知らせください。  
本会報に掲載致しま  
す。なお、本会報の  
発行月は1月、5月、  
および9月です。



がんの治療を、  
その人「らしい生活」のなかで。  
アストラゼネカ オンコロジー

**アストラゼネカ株式会社**  
〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 <http://www.astrazeneca.co.jp/>  
アストラゼネカは新薬開発をリードする世界的な医薬品企業です。



雑文雑談 与力の話 続

石出猛史(昭52)

町奉行所与力という時代劇で馴染みはあるものの、具体的な人物となると余り知られていないと思われる。

与力のなかで最も有名な人物と言えば加藤千蔭(1735~1808)である。国学者・歌人・書家として知られている。賀茂真淵に国学を学び、『万葉集略解』を著した。和歌は典雅な歌風で知られ、千蔭流の書は明治の歌人中島歌子、樋口一葉も学んだという。千束にある一葉記念館に展示されている一葉の手紙は、筆者にとつては難解であった。

千蔭の絵は漢画・大和絵風のもの知られている。幕末の南の与力佐久間弥太吉長敬は、町奉行所の歴史・制度・吟味の方法・与力の生活に関する記録を残している。『刑罪詳説』『拷問実記』『吟味口伝』『江戸町奉行事蹟問答』などがこれである。長敬は天保10年(1839)長興の長男として出生。11歳で与力見習として出仕した。長興は佐久間彦太夫の甥で養子である。彦太夫は年番を勤め、江戸で評判の豪華な生活を送つ

た。12月25日の御用納から正月17日に初出仕するまで、連日連夜自邸で酒宴を開いていたという。

一方長興は剛毅廉直で知られ鬼佐久間と称されたが、弘化2年(1845)南町奉行を勤めた鳥居耀蔵の事件に連座して御暇となった。しかし嘉永5年(1845)弥太吉の後見役として復帰した。弥太吉は奉行所を引けると長興のもとを訪れて、吟味の方法など教えを乞うたという。時代劇の清々しいような場面である。

慶応4年(1867)3月町奉行所支配調役兼勤となり、大総督府への南町奉行所の引渡しを指揮した。明治元年(1868)5月鎮台府に召集され、市政裁判所に勤務。司法権判事・足柄裁判所長などを歴任。同6年征韓論がおこった際に同志と共に辞職した。大正12年(1923)1月東京の笹塚で没した。享年85歳。佐久間氏の先祖は安房の出身である。

これによると与力の三好新助は勤務を嫌って朝夕酒を飲み、三絃をならして義太夫節をうなっていた。このため貧窮し邸の調度、衣服、庭石、樹木をすべて売り払い、終に組替になったという。「組替」は「落とす」ともい、御先手組与力(火付盗賊改の配下)に転役することである。諸役の与力の中で、町奉行所与力が最下位であるように書いてあるが、「宝曆便

覧」によると、15ある与力の役職のうち序列は8番目で、丁度真中である。筆頭が留守居与力で、末尾が御先手与力・御鉄砲与力の順である。格下の与力に転役するので落とすというのであろう。

維新後最後まで生存した町奉行所与力が原胤昭である。佐久間弥太吉の実弟で、母親の実家原氏を継いだ。明治6年(1873)キリスト教の洗礼を受け、兵庫、釧路の集治監(刑務所)で、服役者に対する日本で最初のキリスト教々々誨師として活動した。明治31年(1898)には自宅に「原寄宿舎」を設けて、出獄者の社会復帰事業をはじめた。生涯で約13,000人の出獄

者を保護して「免囚保護の父」と称された。

与力の原氏は、その先祖を臼井城(現佐倉市臼井)城主原刑部少輔の嫡男主水としていた。主水は徳川家康に仕えていたが、キリスト教の洗礼を受けていた

め追放され、後に元和9年(1623)10月現在の港区三田三丁目目で、他の信者たちと共に火刑に処せられた。平成20年(2008)殉教者の一人としてカトリックの福者に列せられた。原氏一族は千葉氏の支族

である。代々千葉氏宗家の重臣を勤めた。胤昭は昭和17年(1942)2月没。享年90歳。手賀沼を見降ろす高台にある原一族の墓所に埋葬されている。

である。代々千葉氏宗家の重臣を勤めた。胤昭は昭和17年(1942)2月没。享年90歳。手賀沼を見降ろす高台にある原一族の墓所に埋葬されている。

2016年 第41回  
**みのはな美術展**  
 -千葉大学医学部OBによる美術展-  
 10月3日(月)~10月9日(日)  
 AM11:00~PM6:00 最終日4時

初秋の候、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。例年通り下記の会場で、第41回展を開催いたします。ご多用中恐縮ながら何卒ご高覧賜りたくご案内申し上げます。

銀座 日暮り  
**ギャラリー向日葵**  
 〒104-0061  
 東京都中央区銀座5-9-13  
 銀座菊正ビル2F  
 TEL 事務所 03-3573-1680

第14回定期演奏会  
 ドヴォルザーク 交響曲第8番  
 ポロデン 歌劇「ネリ公より 韃靼人の踊り」  
 ドビュッシー 小組曲

2016.9.19(月・祝) 開場 13:00 開演 13:30  
 千葉大学 みのはな音楽部  
 指揮:直井大輔  
 習志野文化ホール  
 全席自由/入場無料

千葉日報自費出版相談室

千葉県の県民紙「千葉日报社」では、自費出版のお手伝いをいたしております。新聞社の機能を生かした出版製作のノウハウをご利用いただければ幸いです。

簡単な冊子から論文、記念誌、写真集の作成をプロの編集者がお手伝いいたします。お気軽にご相談ください。

お問い合わせ  
 株式会社千葉日报社 自費出版相談室  
 〒260-0013 千葉市中央区中央4-14-10  
 TEL 043-227-0066 FAX 043-222-3040  
 Eメール sp@chibanippo.co.jp



平成28年度 第1回常任理事会議事要旨抜粋

日時：平成28年4月14日 (木) 18時より

場所：東京ステーション  
コンファレンス

出席者

- 濟陽高穂 (会長)
- 吉川広和 (副会長)
- 吉原俊雄 (副会長)
- 鈴木信夫 (副会長)
- 秋葉哲生 (会計監事)
- 田中 光 (会計監事)
- 大井利夫 (参与)
- 税所宏光 (参与)
- 青木 謹 (伊藤達雄)
- 岩倉弘毅 (岡本和久)
- 小野田昌一 (黒木春郎)
- 崎尾秀彰 (宍倉正胤)
- 白澤 浩 (鈴木 守)
- 角田隆文 (中村真人)
- 忍頂寺紀彰 (幡野雅彦)
- 花輪孝雄 (三科孝夫)

2. 協議事項

(1) 名誉会員の推薦について

白澤浩理事より、資料に基づき説明された。名誉会員推薦に関する内規に則り名誉会員として東京なのはな会より唐澤祥人氏(昭43)、奥村康氏(昭44)、大学より宮崎勝氏(昭50)、3名の推薦があり、名誉会長として伊藤晴夫前会長の推薦があった。上記4名を候補者として総会に諮ることが承認された。

(2) 役員選出について

白澤理事より役員交代について資料に基づき説明された。理事については、信州・宮坂齊氏(昭42)、神奈川県・三科孝夫氏(昭46)、栃木・十川康弘氏(昭55)、千葉・中村真人氏(昭54)を候補者として推薦。参与には大濱博利氏の後任として三枝一雄氏を推薦。評議員については、近藤洋一郎氏(昭33)、小野亮平氏(平28)を推薦。各候補者を総会を推薦。(総会と併催)に推薦する旨提案され、承認された。新理事候補の三科孝夫氏、中村真人氏より挨拶があった。

(3) 平成27年度決算

幡野雅彦理事より資料に基づき以下の通り説明があった。収入については、ほぼ予算どおりであるが、保険集金事務費雑収入が予算を上回り、会報の広告掲載収入も予算額を上回った。支出については、総務費、事業費とも予算内に収まっており、建設資金から同窓会館の植栽費等を支出。予備費からなのはな同窓会賞特別賞、関東東北豪雨被害見舞い金、ちばBCRC(学生)の基礎・臨床の研究発表への共催等に支出。東医体の準備金として積立金より支出。以上が説明され、平成27年度の決算報告が承認された。

(4) 平成28年度事業計画

白澤理事より資料に基づき事業計画について説明された。なのはな同窓会館二期工事としていたものを、なのはな同窓会館関連施設設立計画と名称を変更する。同窓会会員名簿の作製2018年版(3年毎に作製)。同窓会組織の充実として会則の変更を検討する。同窓サポートプロジェクトとして卒業50周年の記念メダルのサイズを大きくし、色のついたものを作成する。以上のことが了承された。

(5) 平成28年度予算

幡野理事より資料に基づき、平成28年度の予算について以下の通り説明があり承認された。収入については、事業収入と会報の広告掲載収入の予算額を増額。基金より、同窓会館関連施設の設立準備金として300万円を計上。支出については、会報・会誌郵送費を増額。大学学事奨励としてちばBCRC支援。同窓サポート・プロジェクトとして新メダル作成のため金型代等を増額。

(6) のはな同窓会賞選考結果

白澤理事より、資料に基づき功労賞の候補者についての説明があった。推挙された候補者について選考委員会にて検討した結果、功労賞に唐澤祥人氏(昭43卒)が候補者として推薦された旨の報告があり、承認された。

(7) 総会議題等について

秋葉理事より、資料に基づき、平成28年度なのはな同窓会総会は、千葉県のなのはな会の担当で平成28年6月11日に千葉大学医学部附属病院外来診療棟ガーネットホールにて開催することが報告された。総会後のシンポジウムに関して、懇親会は附属病院にし棟職員食堂「Forest」にて開催予定であることが説明された。

(8) 活性化委員会

吉原俊雄副会長より資料に基づき活性化WGのメンバーによる会則の改定についての意見交換の報告がなされた。今後の進め方について討議され、常任理事、理事、評議員という現在の役員体制等について、会則改定の原案を執行部にて検討し、総務会に提示することが承認された。

(9) ホームカミングデイ

白澤理事より資料によりホームカミングデイについて説明があった。開催日は亥鼻祭開催の初日11月5日(土)とし、場所は同窓会館ホールおよび会議室とする。ホールにブースを設けて、ビデオ放映、諸先輩の活動の紹介、会報・地区なのはな会誌の展示、来訪者への記念品等の検討をしているとの説明があり、承認された。

(10) その他

岡本和久理事より山本修一附属病院長からの提案として「国際医療福祉大学の教授陣がほぼ決定の予定で

あり、千葉大学出身者の壮行会を7月頃に同窓会と一緒に開催することを検討したい」との意見が述べられた。

平成28年度 のはな同窓会総会議事要旨

日時：平成28年6月11日 (土)

場所：千葉大学医学部附属病院3階ガーネットホール

出席者：90名  
委任状：619名

吉川広和副会長の辞により開会となり、まず物故者95名に黙祷を捧げた。白澤浩理事の司会により濟陽高穂会長の挨拶の後、同会長が議長に選出され議事が進められた。

議事

(1) 名誉会員の推薦について  
濟陽会長より、内規に基づき推挙された唐澤祥人氏(昭43)、奥村康氏(昭44)、宮崎勝氏(昭50)、3名の名誉会員について、また名誉会長の推薦について説明があり、承認された。

(2) 年次活動について (報告事項)

1) 庶務部報告  
白澤理事より、平成27年

・同窓会館の出入り口が夜間利用時は暗く足元が危ないので、もう少し照明を考慮してほしいとの意見があった。

度の各会議開催や各支部との交流等について報告された。

2) 事業部報告

同理事より、同窓会賞の授与、同窓会報の発行、同窓サポート・プロジェクト等について報告された。

(3) 平成27年度決算について

1) 決算報告  
幡野雅彦理事より、決算内容について以下のとおり説明があった。収入については、会費収入はほぼ予算どおりであり、事業収入、会報広告収入が増額となった。支出についてはほぼ例年通り執行されており、同窓会館設立事業より外構、植栽費用等に支出。予備費より関東東北豪雨の見舞い金、昨年度の同窓会賞特別賞、「ちばBCRC」への共催等に支出。東医体の準備金として積立金より支出。以上の報告があり、平成27年度の決算報告が承認された。

2) 監査報告

白澤理事より、平成27年



秋葉哲生会計監事より、監査報告があり決算案が承認された。

(4)平成28年度事業計画について  
白澤理事より、①会報発行、②各地区ののはな会への支援、③各地域ののはな会と本部間の交流、④研究・教育助成、⑤IT広報関連事業、⑥ののはな同窓会館二期工事の計画をののはな同窓会館関連施設設立計画と名称変更して継続、⑦同窓会会員名簿(2018年版)の作製、⑧同窓会員の組織の充実等(会則の変更を検討)、⑨同窓サポート・プロジェクト、⑩第59回東医体支援について説明があった。以上の事業計画について承認された。

(5)平成28年度予算案について  
幡野理事より、各予算項目について以下のとおり説明があった。収入については、ほぼ前年と同じであるが、会報関連の広告収入を増額し、同窓会基金より同窓会館の関連施設設立準備金として300万円を計上。支出については、教育助成金より「ちばBCRC」への支援。同窓サポート・プロジェクトより卒業50周年記念として記念メダルを大きなサイズで作製するため

の金型代費用等のため増額。積立金として東医体の準備金を計上すること等が説明され、平成28年度予算が承認された。

(6)役員選出について  
吉原俊雄副会長より、会則に則り新役員について説明があった。

①理事  
会則第12条に則り、宮坂齊氏、三科孝夫氏、十川康弘氏、中村真人氏の理事選出が承認された。

②常任理事  
会則第27条に則り、総会を理事会併催としたうえで、宮坂齊氏、三科孝夫氏、十川康弘氏、中村真人氏の常任理事選出が承認された。

③評議員  
会則15条に則り、評議員が承認された。

現在の役員体制等について会則の改定を活性化委員会、活性化WGのメンバーにて検討し常任理事会においても会則の改定を進めることが承認されており、今後、執行部にて役員体制等についての会則改定を進めていくことが承認された。

(7)その他  
白澤理事よりホームカミングデイについて、開催は亥鼻祭開催の初日11月5日(土)、場所は同窓会館ホールおよび会議室とし、休憩

室や来訪者への記念品等の説明があった。

鈴木信夫副会長の辞により、閉会となった。

ののはな同窓会賞伝達式  
功労賞受賞者唐澤祥人氏(昭43)について、済陽会長より同氏の略歴、受賞歴等が紹介された。

日本化学療法学会「志賀潔・秦佐八郎記念賞」受賞の報告並びに挨拶  
受賞者上原すす子氏が挨拶された。

シンポジウム  
「押し寄せる高齢化、ジェネラリスト活用で突破口を見出す」新専門医制度も踏まえて」  
座長：横手幸太郎氏、中村理事により、山本修一氏(千葉大学医学部附属病院長)、志賀隆氏(東京ベイ・浦安市川医療センター救急部長)、石川広己氏(日本医師会常任理事) 3氏によるシンポジウムが行われ、松本晴樹氏(厚生労働省)等が指定発言された。

懇親会  
中村理事の司会により開催された。済陽会長の挨拶に続き、乾杯ご発声、叙勲

者、名誉会員、地区ののはな会会長等からご挨拶を頂いた。歓談の時を過ごし、閉会となった。

平成28年度予算

平成27年度決算報告

収入の部	款項目	予算額(円)
	会費等	20,000,000
	事業収入(註1)	6,000,000
	他会計より受入	20,000
	寄付金	700,000
	基金より取崩し(註2)	3,000,000
	雑収入	20,000
	(当期収入計)	29,740,000
	前年度繰越金受入	6,945,659
	収入合計	36,685,659

収入の部	款項目	予算額(円)	決算額(円)	対予算額(円)
	会費等	20,000,000	19,408,000	-592,000
	事業収入(註1)	5,500,000	6,324,169	824,169
	他会計より受入	20,000	9,943	-10,057
	寄付金	500,000	880,000	380,000
	基金より取崩し(註2)	10,000,000	3,847,676	-6,152,324
	雑収入	20,000	9,482	-10,518
	前年度繰越金受入	7,265,512	7,265,512	
	収入合計	43,305,512	37,744,782	-5,560,730

支出の部	款項目	予算額(円)
	総務費(註3)	12,800,000
	事業費(註4)	18,420,000
	法人税等	1,400,000
	予備費	3,765,659
	積立金	100,000
	東医体準備金(註5)	200,000
	次期繰越金	
	支出合計	36,685,659

支出の部	款項目	予算額(円)	決算額(円)	対予算額(円)
	総務費(註3)	12,800,000	10,732,150	-2,067,850
	事業費(註4)	24,020,000	17,268,037	-6,751,963
	法人税等	1,400,000	1,163,400	-236,600
	予備費	3,785,512	535,536	-3,249,976
	積立金	1,300,000	1,100,000	-200,000
	次期繰越金		6,945,659	6,945,659
	支出合計	43,305,512	37,744,782	-5,560,730

註1～5：収入、支出の主要細目等

	款		28年度予算	27年度予算
収入の部	(註1) 事業収入	会員総合補償制度集金事務費	6,000,000	5,500,000
	(註2) 同窓会基金より取り崩し	同窓会基金より同窓会館関連施設建設準備金に充当	3,000,000	10,000,000
支出の部	(註3) 総務費	会議費	3,200,000	3,200,000
		人件費	7,000,000	7,000,000
		その他	2,600,000	2,600,000
	(註4) 事業費	会報・会誌	5,350,000	5,200,000
		学事奨励	550,000	550,000
		・ののはな賞	200,000	200,000
		・ののはな美術展	400,000	400,000
		・猪之鼻奨学会	800,000	800,000
		各種助成	600,000	600,000
		・附属図書館	100,000	100,000
		・白衣式	150,000	
		・国際交流支援	100,000	
		・ちばBCRC支援	100,000	100,000
(註5) 積立金	・留学生	200,000	200,000	
	・白菊会	3,400,000	3,400,000	
	・支部	1,700,000	600,000	
	・同窓サポートプロジェクト	1,200,000	1,200,000	
	・IT関連事業費	3,000,000	10,000,000	
	同窓会館建設費等	670,000	670,000	
	その他	200,000	1,200,000	
	東医体準備金			



# オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>



オンライン会報は、インターネットを介して、動画形式で世界へ情報発信することを旨とし、千葉大学みのはな同窓会の活動をお知らせしております。毎年開催される総会の模様のみならず、各地区みのはな同窓会の紹介もしております。紹介希望の場合、みのはな同窓会本部へお問い合わせください。一方、みのはな同窓会の活動内容の一端として、会長職の任務内容について、みのはな同窓会前会長伊藤晴夫先生へのインタビュー番組で紹介しておりますのでご覧ください。なお、国際交流欄では、海外旅行プランも紹介しております。

## オンライン会報 総合目次

Windowsで動画をご覧になる場合はInternet Explorerを推奨します。  
Macintoshで動画をご覧になる場合はプラグインソフト「Flip4Mac」をインストールしてください。  
>>ダウンロード >>インストール方法  
ただし「\*Mac/スマホ対応\*」があるものは、プラグイン無しでご覧になれます。

- ・ 病院紹介
- ・ 求人・求職
- ・ 同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- ・ 生涯学習講座
- ・ インタビュー
- ・ 国際交流
- ・ 都道府県医師対策
- ・ オンライン書庫
- ・ 同窓会
- ・ クラス会・他大学等
- ・ キャンパス便り
- ・ 福祉関連情報
- ・ 「ほっとひととき」ちば通信（千葉日報）
- ・ 協賛企業からのお知らせ

オンライン会報用  
QRコード<sup>®</sup>ができました



オンライン会報への  
アクセスにご利用ください。

## 同窓会 \*各地区みのはな会を掲載日付順に紹介



多摩みのはな会  
平成27年度総会  
平成27年10月24日(土)  
於 国分寺駅ビル サロン飛鳥  
[2015.12.24掲載]  
\*Mac/スマホ対応\*



栃木県みのはな会  
平成27年度総会  
平成27年1月25日(日)午後3～  
ホテルニューイタヤ  
[2015.5.20掲載]  
\*Mac/スマホ対応\*



千葉県みのはな会  
平成25年度総会  
平成25年6月29日(土)  
午後3時30分～  
於 三井ガーデンホテル千葉  
[2013.8.7掲載]



みのはな同窓会埼玉県支部  
平成24年度総会  
平成24年8月26日(日)午後3時～  
於 パレスホテル大宮  
[2012.10.22掲載]



信州みのはな会  
平成24年度総会・懇親会  
平成24年6月23日(土)  
・総会午後3時～  
▶ 映像を見る  
・懇親会午後6時30分～  
▶ 映像を見る  
於ホテルナガノアベニュー  
[2012.9.27掲載]



中京みのはな会の紹介と会員の方々との懇談会  
[2012.1.10掲載]





沖縄ののな同窓会  
[2011.4.27掲載]



東京ののな会  
平成22年度総会  
平成22年6月5日(土)  
総会・講演会:午後4時30分～  
於 銀座アスターお茶の水賓館  
新お茶の水ビル21階  
[2010.8.6掲載]



江戸川ののな会  
平成22年度総会  
平成22年5月15日(土)  
総会・講演会:午後6時～  
懇親会:午後8時～  
於 ロイヤルパークホテル  
4F琥珀の間  
[2010.7.27掲載]



習志野ののな会  
平成21年度総会  
平成21年11月12日(木)  
総会・懇親会:午後7時～  
於 習志野第一病院/  
キャラバンサライ  
[2010.2.2掲載]



群馬ののな会  
平成21年度総会  
平成21年9月26日(土)  
総会・懇親会:午後5時30分～8時  
於 高崎ワシントンホテル  
[2009.12.25掲載]



平成27年新春インタビュー  
医学部創立135周年記念事業を終えて  
千葉大学医学部創立135周年  
記念事業会  
ののな同窓会  
会長 伊藤 晴夫  
[2015.1.5掲載]

国際交流

### ギリシア医学史の旅 ご案内

医学は科学の一つであり、多くの偉大な先人の業績の上に成り立っています。日々新しい知見が見出されている中で、医療人は「温故知新」を常時こころがけています。ギリシアは近代文明の源であり、医学のルーツを知るには欠かせない国です。医学の神アスクレピオスの神殿では最も保存が良いとされるエピダウロス、オリンピック発祥の地オリンピア、世界のへそ(オンファロス)デルフィ、アテナイのアクロポリスなどギリシア世界遺産を巡ります。またスニオン岬、コリントス運河、ミケーネ遺跡、マラトン戦場跡などの名所、旧跡にも足を運ぶ予定です。今回の医学史の旅は個人では訪れにくいギリシアの医学史跡を巡るとともに、美味しいギリシア料理とワインを楽しみながら、参加者相互の医療の思い出を語り合う機会にできることを期待します。

募集要項	
<b>■旅行期間</b> 2016年 11月 3日(木)～11月 9日(水) 5泊7日 <<羽田発着>>	<b>■申込締切日</b> 2016年 8月 31日(水)まで <small>※定員に達し次第、受付を終了いたしますので、お早めにお申込みください。</small>
<b>■旅行代金 793,000円</b> ◆おとな1名様(2名1室利用) ◆一人部屋追加代金: 60,000円 <small>※空港税、燃料サーチャージ等は含まれておりません。 ※羽田空港施設使用料(2,570円)、海外空港税(約5,760円)、 燃料サーチャージ(目安9,780円)、合計(22,140円) (2016年7月20日現在)を別途お支払いください。</small>	<b>■募集人員</b> 12名(最少催行人員 10名) <b>■その他旅行代金に含まれるもの</b> 日程表記載の専用バス・日本語ガイド料金、 ドライバー・ガイドチップ代、観光入場料、 航空機による手荷物運賃料 <b>■旅行代金に含まれないもの(一例)</b> 日程表に記載の無い日本国内旅費、食事時の飲み物代

ルフトハンザ航空(LH) ビジネスクラス

NEW  
ギリシャ医学史の旅ご案内

- ▶ 募集案内を見る
- ▶ 日程表を見る

[2016.7.28掲載]

注) オンライン会報画面上での  
ののな同窓会報編集委員会、出席(年3回)。  
ののな同窓会報、各種記事原稿作成。  
同窓会会計簿・通帳類、責任者。  
その他の各種規定ないし臨時の事業への統括。  
同窓会事務局の運営統括(事務局職員人事、事務局提出会長名  
文書等の点検・指示)。

クリックすると  
下記画面がご覧  
になれます。

\*会長の業務  
[2015.1.5掲載]  
\*Mac/スマホ対応\*

### ののな同窓会における会長の業務事項 (平成26年度における例)

- 卒業証書伝達式出席、祝辞(3月)。
- 謝恩会出席、祝辞、学生・同窓会役員・教授の写真パネル贈呈(3月)。
- 白衣式出席、挨拶、および白衣着服儀式参列、等(1月)。
- 解剖慰霊祭出席、挨拶、等(秋期ないし冬期)
- 総会・常任理事会・総務会等会議の召集・当日の司会、および議事録確認。
- 各地区ののな会総会に招待された場合、出席、挨拶、等。
- 記念事業・新同窓会館関連作業、寄付金依頼訪問作業、新同窓会館建物委員会出席(毎月)、等。
- ののな同窓会報編集委員会、出席(年3回)。
- ののな同窓会報、各種記事原稿作成。
- 同窓会会計簿・通帳類、責任者。
- その他の各種規定ないし臨時の事業への統括。
- 同窓会事務局の運営統括(事務局職員人事、事務局提出会長名文書等の点検・指示)。



お く や み

鈴木 董三(昭和医専昭18)  
池 二郎(専19)  
三須 正夫(専19)  
松下 亨(昭21)  
片海 宣光(日本医大・昭22)  
実川 涉(昭23)  
植村 勇(専23)  
平澤 正夫(昭24)  
山田 寿雄(昭24)  
松原 義雄(専24)  
大高 伸浩(専25)  
榊原 旦(専25)  
佐藤 文比古(専25)  
渡辺 昭(専25)

小沢 辰巳(日本大歯昭25)  
海宝 豊徳(昭和医専昭25)  
吉濱 博太(東京医大専昭25)  
内藤 和穂(専26)  
井上 幸方(昭27)  
谷 潜(昭28)  
高橋 剛(昭29)  
宮内 好正(昭30)  
入来 正躬(東京大・昭30)  
明石 康三(昭32)  
東 公(昭32)  
藤田 真(昭32)  
小高 稔(昭33)  
上山 滋太郎(昭33)  
水野 武昭(群馬大・昭33)  
紅露 恒男(昭34)

清水順三郎(昭34)  
藤田 昌宏(昭34)  
三浦 光彦(昭34)  
近藤 正大(日本大・昭34)  
堀部 治男(日本大・昭35)  
満野 博章(昭37)  
鮎坂 秀明(昭39)  
林 懷良(昭39)  
高部 吉庸(昭42)  
佐藤 文彦(昭43)  
近藤 春樹(昭47)  
白幡 真知子(昭51)  
広岡 昇(昭52)  
小川 利隆(昭56)  
篠原 和男(日本大歯昭57)

千葉医学雑誌92巻3号 2016年6月

最終講義

千葉大学整形外科教室 一学問の系譜一

高橋和久

症 例

腹腔鏡下修復術を施行した遅発型ポートサイトヘルニアの1例

石多猛志 大石英人 飯野高之 毛利俊彦  
石井雅之 山根貴夫 平井栄一

5-FUに起因する高アンモニア血症から意識障害を来した再発大腸癌の1例

岡野美々 中島 豪 倉持英和 林 和彦

腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術における内鼠径ヘルニアの術後漿液腫発生予防の工夫をした1例

玉木雅子 大石英人 金島研大 李 慶徳 多田祐輔  
塩澤邦久 藤田竜一 飯田 衛 村田 順

海外だより

米留学記：ニュージャージーからニューヨークへ

門平忠之

学 会

第1322回千葉医学会例会・整形外科例会

第1326回千葉医学会例会・第33回神経内科教室例会

OAP要旨

腰椎椎間板ヘルニアに対する神経根ブロック施行時にステロイド剤は必要か

萩原義信 雄賀多 聡 中馬 敦 斉藤 忍 仲澤徹郎 国司俊一

編集後記

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper

Do we really need steroids in nerve root block for lumbar disc herniation?

- A randomized control study

Yoshinobu Hagihara, Satoshi Ogata, Atsushi Chuma, Shinobu Saitoh

Tetsuro Nakazawa and Toshikazu Kunishi

第92回千葉医学会学術大会

千葉医学雑誌92巻4号 2016年8月

最終講義

頭蓋顔面骨外科に挑んだ30年 一顔面形態異常に心を病む小児から成人まで一

佐藤兼重

症 例

腹腔鏡補助下手術にて根治が得られた魚骨穿通による直腸S状部膀胱瘻の1例

菅本祐司 丸山哲郎 花井 禎 清水勇樹 木村正幸 福長 徹  
田崎健太郎 豊住武司 武藤靖英 川島弘之 前岡瑛里  
大森一彦 藤本 肇 窪田吉敏 江口正信 松原久裕

腹腔鏡下手術の手術的吻合部に局所再発をきたしたS状結腸癌の1例

佐藤嘉治 小笠原 猛 志田 崇 野村 悟 小松悌介 高橋 誠

書評+

ハリソン内科学とセシル内科学を読みましたら

関根郁夫

海外だより

フロリダ大学留学記

松木圭介

学 会

第1324回千葉医学会例会・第15回呼吸器内科例会(第29回呼吸器内科同門会)

第1333回千葉医学会例会・第33回千葉精神科集談会

OAP要旨

ラット股関節nerve growth factor投与モデルにおける炎症性サイトカイン

及び疼痛行動評価

大前隆則 中村順一 大島精司 折田純久 鈴木崇根 鈴木 都  
宮本周一 萩原茂生 中嶋隆行 高澤 誠 重村知徳 輪湖 靖  
三浦道明 瓦井裕也 菅野真彦 縄田健斗 高橋和久

編集後記

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper

Gait and inflammatory response in a rat model of hip pain induced by intra-articular injection of nerve growth factor

Takanori Omae, Junichi Nakamura, Seiji Ohtori, Sumihisa Orita, Takane Suzuki

Miyako Suzuki, Shuichi Miyamoto, Shigeo Hagiwara, Takayuki Nakajima

Makoto Takazawa, Tomonori Shigemura, Yasushi Wako

Michiaki Miura, Yuya Kawai, Masahiko Sugano

Kento Nawata and Kazuhisa Takahashi

編 集 後 記

5年ぶりに編集後記を担当しました。5年前の後記を見るとちょうど東日本大震災の年であり、漸く少し落ち着きを取り戻した様な状況でした。5年経った今もなお原発事故はその収束へ向け努力が続けられており考えさせられます。今年には熊本大地震が発生し、私の編集後記と大地震との間に良からぬ連環があるのではないかと妙な気分になります。一方でリオ五輪の年であり、日本選手の大活躍に日本中が感動しました。一瞬、一試合にそれまでのすべての努力を集中させ力を出し切る姿に共感し感動します。女子レスリングではラスト30秒以内の逆転劇による金メダルが続く中、霊長類最強と

謳われた吉田沙保里選手が4連覇を逃し銀メダルとなり泣き続けるなど様々なドラマが展開されました。その背後には血の滲むような努力が続けられているわけで、その努力を継続させるには明確な目標設定が重要であることが痛感させられます。来年度から専門医機構による新専門医制度が開始される予定でしたが混乱を生じ、延期が決定されました。学生、若手医師が頑張つて修練するには、ただ頑張れと鼓舞したり、より優れたカリキュラム、プログラムということだけではなく、努力するための明確な目標を各自が持つということが極めて重要であることが再確認されます。

本号でも多くの先生が他大学の教授に就任され、その挨拶から本学の活躍が日本の医学、医療へ大きな貢献をしていることが良く判ります。山浦先生をはじめ多くの先生が叙勲され、広い分野での活躍が国からも認識されたということだと思います。横須賀先生の最終講義、宮崎先生、佐伯先生の病院長就任挨拶と今年退任された教授の先生方の記事に触れ、一緒に働かせていただいた時間が懐かしく感じられる一方、日本、世界の医学、医療を牽引していただくのものはななをの伝統を今後伝えていく重責を五輪の余韻に浸りながら新たに感じさせられました。

松原 久裕(昭59)